



俄羅斯紀聞

四



七
八
九

俄羅斯紀聞

第四冊

邊要令界圖考





邊要分界圖考抄

魯西亞

カラフト蝦夷并山丹人ハ魯西亞人ヲ呼ビテ又チヤグシト云
或人云ヌチヤハ女直ノ訛音ナルベシ然レモ魯西亞人ヲ
女直人ト云ベキ理ナシ其女直地有ヨリ来ルヲ以テ女直人ト云カ
未往歲魯西亞ノ蠻舶北部ウノヌイブトノ間ニテ難船ニ
魯西亞人僅五人助命シテ西部ナツコノテトノ間ニ住居
セシニ山丹人シノレンガルト華論シテ其後本國ニ歸ルト云
シカ何地ヘ往キシヤ不知ト云
某記寛政元年夏魯西亞船
西部ニヤウニ泊シテ海底ノ浅深ヲ測リ上陸シテ蝦夷
人ヲ呼ビ其髪毛ヲ切り身ノ大ヲ計リ後ニ鉄ノ鍊器ヲ



與フト云最上常寛政三年六月魯西亜人三人小舟ニテ

西部フンナイ姪記ニ来ル松前ノ吏人之ヲ問フニ其人云本國ハ

カムサスカ邊ナリ三年前熟皮交易ノタメ山丹地ニ往キ

今年帰國ス姪記ニ因テカラプトヨリ西地ノウヤニ渡リソレヨリ

クナシリエトロウ島ニ渡リ帰ルベシト云松前ノ吏人之ヲ留ム

其人則云ソウヤ渡海ナラサルトキハ又山丹ニ戻リ歸

國スヘシトテフンナイ松前ノお船セシ由寛政四年魯西

亜人イワノナルモノカラプトニ来リ居ル常矩ユレト姪記隣近

ス其人鳥銃ヲ持チ鎗ヲ杖ツキ其服ハ數年帶留トミヘ

山丹ノ服ヲ服セリカムサスカヨリヲホツカサガリンカラフ

ト邊ノ地面ヲ所持セリ最上常姪記 享和二年魯

西亜船マングノ大河ノ邊ニ来ルト云夷人ナリヤシニ語

邊要分界圖考卷之四

近藤守重輯

和弗加考

東海ウルフ浦嶼ヨリ前路シモシリ島ヨリカムサスカ
地方ニ至ルマデ凡十餘島島三十三世ノ所謂千嶋
ニシテ噉夷人之ヲ稱シテ左ポカト云左バカトハ
日出處ト云義十リ噉夷人ハ日月ヲ指テ左バカムサ
ト云魯西亞國主ヲ統シテ左バカモ
イトノト云魯西亞人ヲ左フトノト云共ニ日出ル處ノ
人ト云フナリ一説ニ初ロシヤ人諸島ニ來ル時夷人ニ語
テ曰我國ノ帝王ハ日月ノ尊ガ如シト故ニ夷人ニ語
左バカムイト稱シ其裔島ヲ左バカト云ト亦通
書ニ紅毛千七百六十之ヲクリル諸島ト云クリルトハ
噉夷ノ一
八年刻石所ノモノ

種ニクルムセト云アリ其クルムセノ夷人ノ島々ト云ナリ
ナリ蠻書ニ云カムサスガノ南ノ出崎ヨリ南西ノ日本ノ方ニテ
大小ノ島連續シタルモノ大凡二十五日三十六其島大ナル
其餘ハ詳ニシガタニカムサスガニ近キハ皆魯西亞ニ属ス
モノ十六小ナルモノ無數古昔ニテ我蝦夷ノ属島タリ
三十八年前^中德魯西亞人カムサスガヲ侯吞ニテヨリ
漸ニ諸島ヲ蠶食シテ三十年前ヨリシモシリ迄ヲ
服後ニテ其嶋ニ名ヲ改メテ盡ク魯西亞ノ名トナシ
二十年前ヨリ夷人ノ風俗ヲ易ヘテ魯西亞ノ風俗
トナシ往古ヨリ日本ニ属セシ蝦夷人ヲシテ髮
ヲ辮ニ帽子ヲ被リ股引ヲ用ニ靴ヲ穿テ鉄炮玉藥
ヲ與ヘ魯西亞人ノ言ヲ使ニ魯西亞ノ佛ヲ頓ニ掛

ケ魯西亞ヨリ役人並教法師ヲシテ^{教法師ヲ夷人ハ}
云時々諸島ニ至リ撫順セシメ其夷人モ盡ク魯西
亞ニ貢ヲ入ルニ至ラシメ十年前ヨリラルヅブ島ニ
到リテ上着シ傲然トシテ去ラザルニ至ルカムサスガ
ハクルムセノ国地ニテ本我蝦夷ノ種族ナリ其地今
魯西亞北海ノ要津トナル嘆ズベキニアラズヤ左
パカ諸島ノ地理前筆ノ面書大抵疎漏少カラズ天
明中竊上帝矩嘗テウレヅブ島ニ至リ魯西亞人イシ
エテケタニ邂逅シテ其大略ヲ得タリ然レ氏未其
詳ナルヲ得ス寛政十二年^{守重}奉命シテエト

ロフ島ヲ按察シ エトロフ嶋モ古来日本人往キテ更ニ

ハ前後日本入渡海ノ十寛政十年守重初テ此嶋工渡リシ

年ト共ニ此嶋ヲ見聞キ翌十一年海路ヲ開キ十二年

山田嘉久ト廻船ニ乗テクナシリ嶋ヨリ同島トリカニエ

看帆シテライト會所ヲ立ツ是此島日本ノ船ヲ通シ日

本ノ家ヲ立 魯西亞人建ル所ノ十字ヲ倒 是ヨリ前

三初ナリ エトロフエ七年在番三十字ヲ立テ夷人エ法ヲ教ヘ夷人

ノ中其佛ヲ受ケ其風俗ヲ變スルモノ有ルニ至ルエトロフシヤル

シヤムノ夷人ハウシビト云モノハ髪モ魯西亞ノ風トナリソノ佛ヲ

信シ符咒ヲ受ルニ至ル又夷人エ名ヲ與テホウナシセト改ルモノアリ

同嶋カムイワツカライニ於テ木ヲ立テ標トス翌年

エトロフ嶋ヲ新開シ魯西亞人授ル所ノ佛ヲ棄シメ

魯西亞人變スル所ノ風俗ヲ改テ本邦ノ風俗トナス

エトロフ嶋ハ既ニ我版圖ニ入ルニ載セズ然レモ寛政十二年初テ

日本船ヲ通シ漁場ヲ開キシハ東都ノ御威光海外ニ溢ル所

ニシテ北條ノ世伊豆ノハエヲ開キ以來初テ開島アリシナル

ベシ今ハエトロフモ東夷ニ三ノ良トナリシヤナラ會所トシテ

漁場トシハケ所ニテ開ケテ寛政十五年十二月伊勢ノ船

志摩ノ島羽ヨリ開帆シテ洋中猛風ニ逢テ漂流シセケ月ヲ

経テ又百餘日ニシテ一大國ニ至ル則エトロフ嶋ナリ陸上ヨリ

テ夷人ノ部落エ行ントスレモ許サス固ク請ヘテ引テ

之ヲ禦ク遂ニ行エトヲ不果ト新井君義此地ヲ諱シテ

北亞墨利加タルウラント地方ノ諸州ナルベシト云リ正徳

中北アメリカト思ヒシ地モ今ハ東都ノ御徳化ニ依テ

其地ヲ開キ其夷人ヲ撫育スルノミナラス儼然タル北門

ノ鎮鑰トナリシ 時ニ左フカ夷人イチヤンケムト来

テ校化スイチヤンケムトハラシヨワ嶋ノ産ナリ居ル

頃アリテ其子イモンケセワクルト父子共ニ本邦

風ヲ仰キ遂ニ其俗ヲ變シテ歸化ス則イチヤンケムシラ

改テ市助ト名ク市助曾テカムサスカ地方エ往來シ

能針路ヲ辨シ其嶋嶼巢泊ノ在ル所ト風順汐路ノ
宜キ所ヲ知ル於是牛重米ヲ紙上ニテ聚テ嶋形ヲ作ラ
シメ諸問講究シエトロフノ酋長ニリシビ及イワレキ
ユルテキアツケシノ酋長イコトイ及ハツコ其他シバク左
バカ諸島ニ往來經過セル夷人ハウシビタカロクイベツ
ケウシ等ト再三討論シテ始テ諸島形勢ノ詳ナルヲ
ヲ得タリ則圖記ヲ作りテ當時進呈ス今其餘稿ヲ
摘テ加ルニ蛮人ノ説ヲ以テシ却弗加考ヲ作ル

ウルフポ嶋

此島ウルフポト云魚多キニ因テ名ク松前人
ハ此島ヲ獺虎島ト云俄夷人ノ所謂ラフ
コ島ハ別地ニシテ此島ノ東倭ニ在リ下ニ
見ユ此島魯西亞人改名ケテラセナツサトイ

云南ニ港アリ夷人ハワニナウト云魯西亞人ハ
シヤバリント云獺虎島南ニハキニ北ハコロ
ト云

此嶋今本邦ト魯西亞ト分界ノ地トナレリエトロフ嶋
カムイワツカライヨリウルフポ嶋ヲカイワタラ延渡海凡十六
七里寅ニ當ル順風ハ未申ヲ吉トス嶋ノ周廻凡七八十
里モアルベシ港泊ハ東邊ハトホ倭民西邊ハワニナウトニ在リ
此地古來ヨリエトロフクナレリ子モロアツケシ四部夷人ノ獺
虎漁場ニシテ魯西亞人モ古來入會獺虎漁セル所ナリ然
レ氏土着ノ夷人ナク夏秋ノ間集リ漁スノミニシテ時トシテ
近年スルモノモアリ魯西亞人ハ古來ヨリ多ク此地ニ近年ス

三十年前魯西亜人ト蝦夷人ト此島ニ於テ争闘アリシ
ヨリ後シモシリ前路ノ夷人盡ク魯西亜ノ属トナル寛政七
年魯西亜人一時ニ六十人渡来漸々ニ帰国シ其中ケ子
トフシ其外十七人居残りテ今此島ニ在留シ廿三人アリ
生ム所ノ子既ニ七八歳ニ及ベリ 魯西亜人初ハ東迎トホニ居ル
今ハ西迎リニナリニ移ルロシヤノ
始末下ニ見ユ 其産物ハ獺虎ヲ第一トス夷人ハラフウヲ捉ニ弓ニテ
射ヤスニテ突ク魯西亜人ハサシ綱ヲ張り鉄炮ニテ打ナリ
又ニノト云 此勝リニ
トナル 貝多シ獺虎ハ好テ此貝ヲ食フ其他海
豹鮭鱒ウルフ 近來名ヲ異ヘテ紅鱒ト云嶋ノ名
モト此魚多キニ依テ名ヲク 雨鱒イルカ
鯨ヲキナ 是ハイルカ
モナリ海中潜ヲ出ストキハ
山ノ如シト云其牙長五六

寸圍七八ノ類其木ハ樺ハン五葉松イタヤシユイニノ類
寸アリ 其山ハカヒラヌブリ
エトロフベ
ヨリ見ユ 其周廻ハ西邊ハ チカイウタヲヨリ
チフトラレベラ近 一日路ヨリロフチシ近
一日路 ウフチヲガ近
シレムコ近 一日路合四日路
東迎ハ チカイウタヲ
ヨリトボ近 一日路 トホヨリア
ダフトイ近 一日路 アダフトイ
ヨリアトイ
近ヤ一日路合三日路ニシテ盡ルナル但ウルフ 山口録五郎
最上徳内 嶮按拾
ハ天明六年官初テ吏人ヲ差シ 山口録五郎
最上徳内 寛政三年
官又吏ヲ差シ 最上徳内
和田兵大夫 其後松前ヨリ一度人ヲ差
シ享和元年官又吏人ヲ差シ 富山元十郎
深山宇平太 俱ニ其地ニ
於テ魯西亜人ニ邂逅スト云

ヤンゲチリホイ 嶋 吾西亜人改名セ

ラルツプ嶋ヨリ渡海凡二十里順風ハ子ヲ吉トス嶋ノ
周廻凡日路ト云港泊ナク巖石ノ上エ寄り木ヲ渡シテ
夷舟ヲ揚ケ置ナリ木ハ一切ニナシ草ノミ生ス魚モ少
シ唯エトヒルサト云鳥ノミ エトハ鼻ヒルハ美ノ夷言ニシテ此鳥ノ嘴赤クシテウツクシキニヨリテ名ツク
夥シク島ニテ地ノ見エサルホトニ却飛シ手ヲ以テ容易
ニ投得ベキホトナリ夷人此島へ渡レバ此島ノミヲ食料ト
其骨ヲ拾テ薪トス此島ニカムイワツカト云ヘル泉アリ岩砂
ノ間ヨリ僅一碗ホドブ、涌出ル色香トモ全ク辛キ酒ノ如シ
久シク酌ニ置ケバ甘クナリ其側ニテ酒ノコト噂スレバ

忽チニ水涸レテ又別ノ所エ涌出ルナリ酒ヲ釀セシ桶
ヲ持チ行キテモ泉出ズト云實ニ奇水ナリ魯西亜人此
泉ヲ名テキスロータト云 壺書云クリルノ諸島ニ酒泉ヲ出ス島アリ販夷人來テ之ヲ取テ還ルモ
ノアレ氏海上ヲ経ルニ至テ悲ク帝ノ水ニ変スルナリ 此酒泉ノ外ニ水一滴モナシ又カ
チコロト云 島アリ大サ燕ノ如ク羽ハ白黒ナリ之ヲ投
レバ口ヨリ油ヲ吐出ス 此島壺國ニモアリト云 又カモイチカプト云島
ハ羽黒クシテゴメノ如シ此嶋モ古來エトロフ夷人年々
獵虎漁トシテ渡海スル所ナリ
レバンチリホイ嶋 レバンチハ夷語ノ中ト云フナリ此島中ノ名ニアルヲ以テ名ク
此島大サヤンゲニ同シ獵虎アリ

一カシレ、嶋 魯西亜人改
名セウセ

此島大サナリボイニ同シ獵虎トバ有リ木ナシ夷人此島
エ至レトエトビリカ島ヲ授テ食料トナシ其骨ヲ焼テ薪トス
エトビリカ島夥シクシテ内地ノ鮭鱒ノ多カ如シ此島モ古
来ヨリエトロフ夷人獵虎漁場ナリ

ラフコ嶋

此島ハエトロフ嶋ウルフ嶋ノ東洋ニ當レリ晴天ニ海上
遠ニ見ユルヲアリ此地ハ本々ムセ、夷人ノ島ナリシニ近來
魯西亜人ニ候吞セラレソノ風俗モロシヤニ變セリ此島ニ
夷人多ク住ス魯西亜船六毎度此島ノ夷人來リ居ルナリ

魯西亜人ウルフヨリ此島ニ渡海スルニアイ 北風
ナリシモ風ニテ
ウルフ嶋ヲニナウヨリ出帆シテ真帆舩ルナリ此嶋ノ夷
人ハ皆鼻ヲ穿テ環ヲ通ス言語モ通ジガタシ魯西
亜人ヨリ文字ヲ教ヘ物ヲ書ナリ今モ其夷人一人ウル
フ魯西亜人ノ所ニ來リ居ル名ヲキモヘイト云ラフコ地
ヨリモ快晴ニウルフ見ユルト云キモヘイトウルフニテ其
本国ノ舟ヲ造ル其制舟ヲトバノ皮ニテ張り袋ノ如クニ
拵ヘ中ニハ木ヲ骨ニ入レ夷人一人乘リテ袋ノ口ヲシメ
切り水ノ入ラサルヤウニシ櫂ニテ左右ヘ櫓キ走り陸ニ
上レハ骨ヲ去リ皮ハ疊ミヲクナリ此舟ヲ夷人ハトンド

千フプト云魯西亜人ハマイタ^{一作}ント云クナシサノ酋長ツキイ
嘗テ云クルムセノ舟ヲ見シコトアリシニハ舟ヲ皮ニテ包ミ
巾着ノロノ如ニシテ其口ニ身ヲ容レ皮袋ノロヲシメ切リ
底ニ石ナトラ入レ舟ヲ重クスイカニ大浪ニテモ島ノ浮
ガガ如ク舟モ入モ波ノ中ニクブリ入りテ又浮クヲ自在
ナリクルムセノ人此舟ニ乘リ中ニテ島ヲ逐シテ見シガ
両手ニ弓矢ヲ持テ舟ハ櫂ヲ動シタリ思フニ袋ノ中ニ
糸ナドヲ仕掛ケアリテ是ニテ櫂ヲ動カセシナラントアツ
ケシ酋長イコトイ弁イチヤンゲムシ云クルムセノ夷人ハトイチ
セコフチヤカムイノ裔ナリ老虎傳ヘ云古ニ夷地ニトイチセ

コフチヤカムイト云モノ有リ其身甚ク短シ皆穴居ス夷地開
クルニ後ニ漸々ニ奥地ニ入り遂ニ其種族相率ヒテ穴ニ
乘リ東洋ノラフコ島ニ往キテ其部落ヲナセリト又ヤミ
シヤツニモクルムセノ種類アリ 下見ユ

シモシリ島 魯西亜人改名
セムナツサトイ

此嶋ウルフプヨリハ少シ小ナリレバンナリホイヨリシモシリ
嶋モヨロエ渡海ス此渡リノ路ハエトロフノ渡ヨリハ弱シ 順風ハ
西ヲ吉ト順風上平ナレバ早天ニナリホイヲ突シカラ
盡シテ舟ヲ行リ黄底ニシモシリエ着船スト云計ルニ三十
里内外モアルベシ此島ノ前路ニ十本邦ノ属夷ナリニ三十

年前ヨリ魯西亞ニ服從シソレヨリ二十年以來夷人悉ク

魯西亞ノ風俗ニ変シテ男女トモ髪ヲ組ミ帽子ヲ被リ股

引靴ヲ着シ佛像ヲ掛ケ鉄炮ヲ持ツ魯西亞役人モ時々

来ルナリ

寛政十年ロシアノ役人三人此地ニテ来リ近年ニ至リ年歸國ス本国ノ頭役替リタルコト、金銀ノ以テ直シ

アリシコトヲ知ラ内地ノ夷人ハ此ヨリ前路ヲ指テ去ルナリ

ト云其夷人ヲテユブカアイヌト云古来ハ内地ノ夷人モ常

ニ此辺ニ往來シテ既ニアツケシノ酋長イコトイ先祖ハシモ

シリノ夷長ニテウセリ辺ニモ其親族アル由ナレト久シク

中絶セシニ近來ハ輕物

獺虎鷹羽ノ類ヲ指テ輕物ト云

少キニ依テイコト

イ等ハ此辺ニテモウタン

家来ヲ造リテ

近年サセ獺虎鷹羽

ヲ取ラスルナリ又シモシリ辺ノ夷人ハ古來ラルプニ於テ

内地ヨリ渡海セル夷人ト交易シ輕物ヲ持来リテ夷人ノ

宝トスル行器盃碗鍋鐺小刀古着獺狐皮酒煙草類ト交

易セシニ今來ハエトロフ開島ヲ聞テ同所ニテモ来ルナリ

此島ノ夷人ハカムサスカ述往シモノアリ昔ハシモシリニ夷人

多カリシガ今ハ甚サシラヨウ荒ラセシリノ夷人モ冬ハ此地

ニ来リテ近年ニ輕物ヲ授ルナリ獺虎玄狐鷹アリ鱒鮭ハ

無シラシリユミト云魚ノミ多シ夷人ハ草根ト魚トヲ食ス

着モノハ島ノ初大ノ皮又キナト云草ヲ編テ着モノトス

按ニ島貢ニ島夷并服ト云ハコノ類ナルヘキカ

此嶋ヨリ前路ハ夏中モ雁常ニ

居ルナリ嶋ノ東南ニ港泊アリ其山ハアチウシ。イタンキライ。
トエトクシリナト云ルアリ シモシリヨリケトイ嶋エノ渡リハ至テ
近シ半日ニテ着船スヘシ風順上浮ナレハニモシリヨリウセリ
迄モ一日ニ至ルヘシ

ケトイ嶋 魯西亞人改名
バツナツサトイ

小島ナリシモシリ嶋渡海ハ屯ヲ順風トス此渡リ沙路強シ
夷人ハ住セズラシヨワヨリ冬中來リテ鷺ヲ投ルナリ此地

獵虎アリ

ウセシリ嶋 魯西亞人改名
セテイナツサトイ

ケトイヨリ未ノ風渡ル小島ナリラシヨリ近至テ近シヨリ

ノ夷家見
ユルト云

夷人住居西辺ニ港泊アリ此島鷺甚多シトハモ

アリ雁ハ夥シク手投ニナルベシ夏中モ常ニ居ル雁ノ卵

ヲ拾ヒ以ニ入レニ以モ四以モ脊負テ歸ルホドナリ内

地ノ夷人嘗テウルツプ嶋ニテウセシリノ夷人ノ來リシヲ

見シニ雁ノ羽ヲ衣ニ拵エ海豹ノ皮ヲ縁ニフケ筒袖縫

タルニニ仕立看スルハ頭ヨリ被リテ看シ皮ニテ作リシ

股引ヲハキ膝ニテ掛ル靴ヲハキ居タリ

ラシヨリ嶋 魯西亞改名
テリナツサトイ

小島ナリウセシリヨリ午ノ風ニテ渡ル南ノ方ニ港泊アリ

此嶋夷人住居ス魚類ナシ島ト草根ヲ食トス小嶋エヘ

カ氣候ハ至テ寒シ然レモウルフ邊ト遠ニ冬モ氷ハルヲナシ
歳ヨリ氷流レヨルコトアリ木ハ樺ハシノ木多シ白キ鷹アリ
エト。ビリカ。ハロ 大々鴨ノコロエ。ト云鳥至テ多シ獵虎アリ

夷人ハ陷穴居ス其制穴ヲ掘テ上へ木ヲ架ニ渡シ草ヲ
盡テおウ掛ルナリ内ヨリハ陷子ヲカケテ出入ス エトロフ島ニ

居ノ跡アリ又イチャンゲムトエトロフ 校化夷人市助 夷名イチャンケ
ニ居ルトキモ穴居セリ ムシ後ニ今ノ名

ムキニシテ其皮ヲ羽ヲ内ニシテ幾フモ綴リ附ケ筒袖ニ
拵ヘ襟ト袖口ト裾ヘアサラシノ皮ヲ細ク附ケ胸ト裾エ

エト。ビリカノ嘴ト犬ノ皮トヲ文飾ニ附ケ魯西亜人ヨリ

得タリトテ木綿ノ股引ノユルキモノヲハキアサラシノ皮ニテ

拵ヘタル靴ヲ穿テ頭ハ髪ヲ左右へ分ケテ髻ヨリニツ打ニ

組ニ下ケ其上エ帽子ヲ被ル帽子ハ裏ヲ狐皮ニテ作り

表ハ皮ナリ是モロシヤヨリ得シ由ニテ鉄炮ヲ持テリ其

鉄炮ハ長サ三尺余大打仕掛ナリ塩硝ハ魯西亜人ヨリ

得ルト云此嶋ノ此風俗ニナリタルモ二十年前ヨリノ事ト云

嘆スベキノ至リナリ 市助ノ子ヲイモシケセツクルト云十六七歳ナリ

市助ハ四十歳余ナリ左アカ夷人ノ風俗ヲ
変ジタルハ何頃ニヤト問フニ市助若年ノ頃其子ヨリカシ生長ノ
時敵夷人ト魯西亜人ト戦ヒシコトアリソレヨリ後チ悉クロシヤノ風
俗ニナリ 其妻イナンシヤウシニツハシヤシコタンノ産ナリ風俗ハ
タリト云

夫ト異ナルヲナシ頭ニ帽子ヲ被リ其上ヲ更紗ノ切ニテ

包ニ後口エ下ケ島皮ノ衣ヲ着シ、股引ヲキ唯唇ノ廻リト
手ニ墨ヲ入レシハ夷婦ノ如シ其子イモシケセフクルハ十六七歳
許リ頗ル穎悟ナリ風俗亦同シ胸間ニ十文字ノ鉄物ヲ
掛ル是ヲケレシタト云魯西亜教師ヨリ興ル所ナリト云オ
チヤンケムシ亦佛像ヲ所持ス船中難風ノ時ハ此像エ祈ル
共ニ魯西亜人ヨリ受ル所ナリト云父子三人ウルツプ嶋エ
来リ魯西亜人ノ所ニ居タリシニアトロフ開島ヲ聞テエトロフ
酋長ノ歸船ニ搭附シテ寛政十一年戊辰セリ其夷口シヤ
人ノ所ニ從ヒ居シ故カ頗ル機智アリ能ク方針ヲ用ル
事ヲ知ル此嶋エハカムサスカヨリ魯西亜人年々来リ又ヨリ

ロウシイシヤムハ云人時々来ルナリヨウロウシイシヤムハ魯西
亜人ハ風俗モ違ヒ概夷ノ如ク髯アリ着類モ別ニテ錦
金入ノ羽織ノヤウナル綺麗ナルモノヲ着スチムプカムイノ方
ヨリ魯西亜
国主ヲ云命セラレシ由ニテ夷人トモ銘々残ラズエ十文
字ノ少サキ鉄物ヲ換ケ頸エ下デサス之ヲケレシタト云
是ハ夷人守護ニテ此ケレシタエ祈レバ漁獵モ多クナリ又
ロシヤ人ノ中暴惡ノモノ有レ氏此ノ鉄ヲ掛クレバ殺スヲナシ
ハテ興フルナリ又夫ナキ女エハヨウロウシイシヤム媒妁シテ
夫ヲ持タセ女ノ帽子ヲ興フルナリラシヨウ夷人ハ狼虎皮
玄狐皮等ヲ持チカミシヤツケ迄往キ魯西亜人エ貢ニ出

スナリ但 クシエンコタン迄往キテ同所ノ夷人其皮ヲ受ケ
取リラシヨウ夷人一兩人乗組カサスガエ往キクシエンコタン
ノ夷人ヨリ取次テ魯西亜人エ出スナリチエポカノ夷人獺
漁スルモノハ魯西亜人ヨリ鉄炮玉藥ヲ得ルナリ鍋ハ丸
ツブニテ交易シテ得ル斧鑄ハ魯西亜人ヨリ得ル所ナリ此
地ノ夷人チコイチエイト云モノハ魯西亜人ヨリトヤント云役
名ヲ附ケ左ポカノ嶋々ヲ支配スアツケシエ魯西亜人往
キントキ通詞トナリテ往シモノナリ魯西亜ニトヤント云役名
アリ又ヤシヤラルト云役名アリトヤシハ乙名ノ如クヤシヤル
ハ小使ノ如シ近頃ハトヤシニチコイチエイトヤシヤラルニハシレ

イタ。エリヤナト云夷人アリキ昔内地アツケシノ夷人此地
来リ魯西亜人ト争闘シ半ハ殺サレ半ハ残りタラ魯西亜
人ニ服從セハ殺スニシトテ志ク魯西亜ニ從ヒキ又此地
ニ春ハシモレリ夷人来リテ草根ヲ取り貯テ糧トスラシ
ヨウヨリモトリ迄ハ早天ニ出船シテ晝ハ着ス汐ハ強シ

モトワ嶋

魯西亜人改名
ヲリシナツサトイ

小島ニシテ尖山ノミナリラシヨウヨリ渡海ハ引込ニハ午ノ
風汐立ニハ未申ノ間ノ風ヲ吉トスモトリヨリラツクワキエハ
近シ一日ニ往返スヘシ

ラツクワキ嶋

魯西亜人改名
テエナツサトイ

小島ナリモトヨリ午ヲ順風ト北ノ方ニ港泊アリ
ト述ハ遠シ早天ニ出帆シテ薄暮ニ着船ス
汐路陸シ

エハイト嶋

一名コタヌンモシリト云夷人住居ス東北ノ方ニ港泊アリ
又此嶋ノ東ニ千ロモシリト云アリ至テ小島ナリエハイトヨリ
シヤシコタン迄近シ一日ニ往返スベシ

シヤシコタン嶋

南北ニ港泊アリエハイトヨリ午ノ風ニテ渡ル夷人住居ス
嶋中ニ湖アリクトニシタリ。エグルビンナト云山アリ
投化夷人イチヤンゲムトノ妻ハ此島ノ産ナリ此嶋ノ西北ニエ
エカルト云小島アリ

ハルヲニコタン嶋

魯西亜人改名
テエアトイ

小嶋ナリシヤシコタンヨリハ午ヲ順風トス西ノ方ニ港泊
アリ此ヨリヌシヤシコタンエ一日ニ往返スベシ此嶋ノ西ニ
リチヨト云小嶋アリ

スシヤシコタン嶋

魯西亜改名
フトロイ

一名ラン子コタン此島周廻船路二日路モアルベシ夷人住
居スシクホヤニイルハルヲニコタンヨリ未ノ風ニテ渡ル南ト
西ニ港泊アリ夷人住居ス此ヨリポロモシリ迄至テ遠
シ早天ニ出帆黄昏ニ着岸ス汐路ハ中ホトヨリハ強カラズ

此嶋ノ西ニニカシラシト云小島アリ

ホロモシリ嶋セリモイ魯西亜人改名

大島ナリウルツプ嶋ホドモアルベシヌシヤシコタンヨリ巳午ノ風ニテ渡ル南ニ港泊アリ夷人ハベワボ。アルモイニ村ニ住居ス山ハシヤシリ。モソ子ウ。チヤリシギキ。ラプロトナド亮山アリチヤリシキノ麓ニ湖水アリ東ノ方ニ名山アリ山ノ頂左右ニ張り出テシモクノ如ト云此ヨリクシユシコタン迄至テ近シ互ニ声ヲ通スベキホドナリ此西北ニヲヤフコバケト云小島アリペツボノ南ニヲウデニルモイシヨ。アワイシヨト云小島アリ

クシユンコタン嶋

周廻舟路ニ日モアルベシモヨロボト云港泊アリ魯西亜船毎年此處ニ越年ス北ノ海濱ニ湖水アリ其側ニ夷人住居ス此ヨリヤムサスガノ南ノ出崎レブンライシヤシ迄至テ近シ木ノ葉見ユルホドナリ午ノ風ニテ渡ル

此辺ニベツボ。トフルケトニ島

アリ共ニ夷人住居スト云其地今知ベカラス

カムサスガ地方ハカニシヤアツケト云

此地モト蝦夷クルセノ部落ニシテ我日本ノ属疆ナリシニ正徳五年魯西亜人侵入シテ今ハ彼國北海ノ要路トナリラルツプヨリシモシリヲ歴此ニ到テ渡海凡二百五十余里

魯西亜人云凡一千三十エルスタト今本邦ノ里法ヲ以テ之ヲ計ハ
二百八十六里余ニ當ル然レニ垂書ノ圖ニ依テ之ヲ測ルニ凡二百五十
里許ニシテ其往來セル夷人ノ其渡海ハクシユコタンヨリ午ノ
風ニテ此地ノ南ノ出崎レブニライシヤシエ渡リソレヨリ地方ニ
沿テ擡キ送り凡四五日ニシテベストワアビルスコイニ至ルベス
トワアビルスコイハ魯西亜人ノ改メ名ル所ニシテ本トボニルカ
ト云ヒカムサスガ入海ノ大港向ナリ魯西亜人此地ニ砦壘ヲ
築キ上手ヲ築キ海口ニ所ハ大筒石火矢ヲ備ヘ魯西亜
役人一人外六十人ホド在留シ穴ヲ掘テ家トナス其穴
居至テ深ク廣シ梯子ニテ上下ス地上ヨリ之ヲ臨メハ其人
小兒ノ如ク見ユルホドナリ魯西亜船ハ毎年數度ヲホツカ

邊ヨリ往來シニ艘ヅ、此用ニテ越年ス

クルムセ夷人ハカムサスガ地ニ住居ス其地ヲ惣テボニルカ
ト云今魯西亜人改メ名ツケテベストワアビルスコイト云

嘗テ東夷地アツケシ荒サルモンベツニ於テ其酋長等ノ語ヲ

聞ケリ云昔義經朝臣

夷人ハラキ、并慶夷人ハシヤニ花川

ノ上ハイビラト云地ニ居テカジキトラシノ嘴ヲ聚テ柵ト

ナシ又下武川キロ、井山中ニ往來セラレシニカニケシイ

ラツパト云ヘル金色ノ羽ノ鷺通りタルヲ見テ相共ニ鳥

ヲ逐テボニル、カノ国ニ至リ玉ヲト此ボニル、カノ国ノ事

先夷ニ問ヘ知レザリシガ左ヅカ夷人イチヤシゲムニ投化

ノ時ヤムサスガ地方ノ事ヲ問タレバヤムサスガノ海口モトハ
ホニル、カト云ルムセノ国ナリ今ハ魯西亞人改メ名テベスワ
アビルスコイト云ト始テホニル、カノ国名ヲ發揮セリクルムセハ
本トトイセ、コウチヤカムイト云ヘル往古倭夷地ニ居ケル一種
ノ夷人未高ニシテ夷地開ケ夷人聚ニ後テ奥地エ遁レ
ラフコ島并カムサスガ地方エ往テ部落ヲナセリ其人物
ハ倭夷人ニ異ルコトナク髮眼トモニ黒今皆魯西亞ノ風
俗トナル其船ハ皮ヲ以テ包ム前ノラフコ嶋ニ見エタリ
此皮船ノコト倭夷人ハトンドチツブト云魯西亞人ハ、イ
タレト云又魯西亞人ノ船木ニテ造リ傳馬船ノ如ナルハ

蝦夷人ハロクンドト云魯西亞人ハ、ポロシヨニナイト云按ニ

魯西亞志並東砂葛記ニ云又一種ノ夷人アリクリレルスト
云カムシカフツノ南ノ出崎及南ノ諸島ニ住ム大抵カムシカフ
トノ人物ニ似タリト云ヘ此地ノ人ハ惣身ニ毛ヲ生ズ
ルヲ異ナリトス男子ハ唇ヲ正中ノミヲ懸シ女ハ總テ
唇ニ黒キ點ヲナス男女共ニ耳ニ銀環ヲ懸ケ肘ヨリ腕
ニデノ間ニ種々ノ模様ヲ入黒スルナリ衣服居所ハカム
シカフツカニ同シ飲食ハ魚ト海獸ヲ食トス妻ヲ多ク具ス
其齒ヲ懲スヲ甚嚴ナリ祭ル所ノ神ヲインコウルト云是
ヲ祭ルニ木ヲウスリケブリヨリサケテ幣ノ如シ

倭夷人所謂
イナナリ

獸ヲ殺シ皮ヲ取りテ備ヘ紫ル肉ヲハ食用トス人死スレハ
冬雪中ニ埋メ夏ハ土中ニ葬ルト見ヘタリ

魯西亜ノカムサスカ諸島ヲ併吞シ食セシメ 本邦ノ書記

ニ考ル_ルナシ_ニ按ニ東砂葛記并魯西亜志ニ云我 明曆

寛文ノ頃カ魯西亜ノテラドフト云人カムサスカニ漂着シテ

僅ニ巡檢シタルナリ 魯西亜人イシユ云千六百四十二年ヨ
フルト云モノ初テ見開ケリト按テ千六百四

十三年ハ我慶安ニ即ソノ國ノ周圍ヲ廻リ見タリ其ヨリ後ハ

誰アリテ此地ノ事ヲ魯西亜ニ通知セシムル者ナシ然ルニ

コサツカノ人アトラソフト云者此地ノ要處ヲ見タルナリ多シ

則元禄十一年 彼國千六百 アタラソク一軍ヲ帥ヒエーサツ

ケン_ノユカゲリ及ユレ_ーキヨリ此地ニ至リ土人ヲ大半服セ

シメテ元禄十三年 彼國千 七月本國ニ歸ル 其得タル所サ
ルノ皮三千二百

枚ペイフル則ラフコセ十七_七 獺四灰白色 正徳五年 彼國千七
百十五年 再

心軍勢ヲ理シコスモスソコロフト云者ヲシテカムサスカ及ヒ

近傍ノ諸島ニテモ伐子後ヘリ其船ハヲホフコイ 則ラホ
ツリニテ

イルコツカノ南ノ小城ヨリ出帆シテペンシニクスノ港ニ入テ

カムサスカノ北地ニ到ル又ラコフコイ海ヨリカムサスカノ城

下ニモ着船スナリ享保十六年 彼國千七
百三十年 カムサスカノ人聚

リ起リテ魯西亜ニ叛ク幾ホトモナクシテ靜謐シテ其後

永ク服従スベキ盟約ヲナシ其賦税ハ年毎ニ人々サベル皮

一フル昭虎狐等ノ皮一枚ヲ、出スナリ

日本人ロシヤニ漂流ノ事

宝曆三癸酉年一ニ云延享元年ト然レモ天明五年飛彈屋某ノ書ニ三十年トアレバ宝曆三ヲ以テ是トス六人存命シテ子アリ其國ヲ向ヘハ松前ト云ト疑クハ傳聞ノ証ナリ
州南部領佐井村竹内德兵衛外十六人千二百石積ノ新艘ニ乗組同年十一月十四日佐井ノ湊開帆シテ難風ニ逢ニ北方ニ漂流シテ赤人ノ國ニ漂流ス德兵衛ノ親族勝右衛門奥戸村伊勢屋安兵衛親類利八大間村長松宮古湊伊兵衛長助等五人今ニ存生シテ赤人ノ國ノ土人トナリ各所々ニ住居ス利八ハカムサスガ土人日本ノ通詞ビヨドロト云モノ、妹聲トナリ勝右衛門ハイルクブエイニ住居シテ赤人ノ國主ヨリ銀錢二百文ニ抱ヘラレイルクブコノノ役人トナリシニ男子ヲ生メリ此子諸人ニ勝サリケル國主ヨリベイタラレランセイチヤト云名ヲ賜フ天明三年ニ至リ十七歳ニナリシカ國主ヨリ大船ヲ造ラシメ水主七十四人ヲ添テ勝右衛門カ子ヲ船師トシテゴロシタラハンエリスカイト云港ヲ開帆シテ南方ニ針路ヲ求メテ帆セ出セリ蝦夷ノ地方ニ赴キシガカラフトニ着シテ土人ノ為ニ殺サレ船ハ流レテウルブツ嶋ノアタフトイニ漂着シケリ時ニエトロフ嶋ノ酋長ハツバ

アイノト云モノ之ヲ見テ船ニ乗リテ見エス金銀錢羅紗
狸々緋夥シク空船ニ積ミ有之ニ盗ニ取り隠シ置キ
其船ヲバ焼棄ケリ然ルニ毎年獵虎漁ニ渡来スル赤人
ノ船遠沖ヨリ幽ニ見ヘテ段々間近ク頻テ此嶋ニ着岸
ト見ヘケレバ時ニハツパイヌ思フハ赤人ノ大船焼棄
テ船中ノ積荷物取隠シタルユト若露頭ニ於テハ船中ノ
人モ我等殺シタルヤト疑モ掛ルベキヤトテ日和ノ善惡
ヲモ見定メテ周章テ慨夷船九艘ニ乗組百人余ニテウ
ルツパ嶋ヨリ出船シテエトロフ嶋ニ遁歸ラント以テ急
流ヲモ厭ハス大難海ヲ渡リシガ折節暴風狂々遂ニ沖
中ニテ浪底ニ覆没シテ溺死シタリケル赤人トモハウル
フゾノ嶋ニ着船シテ其辺ニ遁殘タル慨夷人ニ詰問セ
バハツパイヌト云モノ當島へ漂流メ船中ニ死骸一ツ
アリテ船主モナケレバ荷物ヲ取隠シ遁去ケル次第具ニ
告ケレバ赤人是ヲ聞テ大ニ怒リ此島ハ赤人慨夷兩國入
合漁業セシ所ナレバ急難宜ニ救フベキニ不法ノ仕方ナリ
トテ鬱憤ヲ愈ミケル慨夷州紙ニ載ス

天明二寅年伊勢國白子村神昌丸船主彦兵衛船頭幸太
夫外十六人乗組同年十二月島羽出帆駿河沖ニテ難風
ニ逢ヒ漂流シ翌卯年七月アミシツカ島ニ漂着同所ニ

四年滯留セシニ赤人此島ニ獵虎漁ニ来リシ船アリ其船
ニ便乞ニテ同七年八月カムサスガへ着船同八年十
キリヲ経テヲホツカエ入津十一月ヤコヲツカエ着寛政
元酉年二月イルコヲツカエ着同三年二月ヲロシヤノ城
下子テルボルエ着廿帝エ謁シ同十月城下出立同子年九
月十三日ヲホツカ出船十月三日東蝦夷地パラサンエ帰着
同五日魯西亞船ニ乗テ子モロエ歸国ス
子年ロシヤ人來朝
一始末ハ世ノ人皆知
ル外ナリ故
ニ累ス

寛政五癸丑年奥州仙臺領石ノ巻若宮丸船頭清兵衛
外十五人同年十二月難風ニ逢シ翌年寅五月アツカト云
嶋エ漂着如年六月ロシヤノ船ニテヲコヲツカエ着ス文化
元子年九月六日五人ロシヤ船ニ乗テ長崎エ歸国ス

魯西亞始末

魯西亞人ノ事蝦夷ハフーレシヤムト云夷言ニフーレハ赤キ
フシヤムハ人ノフナリ故ニ松前人之ヲ称シテ赤人ト云
又赤蝦夷ト云是ハ往歲魯西亞人初テ蝦夷地ニ渡來セシ
時ニ十猩々緋ノ服ヲ着ヤリ因テ夷人之ヲフーレシイヤ
ムト云赤人ノ蝦夷地ニ來ルヲ記載ナケル其初ハ知レズ
東蝦夷地モ古來ハアツケシ迄廻船往來シ夷人ト交易シソレ
ヨリ前諸ハ通船ナカリシニ四五十年前ヨリ子モロヲ開キ三四十年前
ヨリクナシリ嶋ヲ開ク故ニ奥地ニ至リテハ本邦ノ人往來ナ
ク又夷人モ往來稀ナレハ委シキヲハ知リカタシ 今蝦

夷ノ語ル所ト松前ノ傳フル所トヲ採録シテ其事

由ヲ見ルノ一助トス 一説ニ寛永年間赤人初テアワケシエ三十人許
リ渡来スト云然ベシ守重按ニ元文四年奥州迎

房州筋海上ニ異國船見ユ瀨海ノモノ銀錢ヲ得タリ長崎ニ遣シテ

紅毛加比丹エ見セシメラレシニムスコウニヤ國ノ文字ナリト云是日本海エ

赤人船ノ来リシ初メナルヘシ其後明和八年阿波ニ三四十年前之ヲ

口シヤ船来リ詳ニ島西ニ卷ニ見ユ

嶋ニ於テエトロフ嶋ノ蝦夷人及シモシリヨリ前路島々ノ夷人一同

カラ合セ赤人ト年闘セシテアリ其時ハ此方蝦夷トモ討

負ケタリ翌年又年闘アリケハ赤人トモ討負ケタリ其後

エトロフ島シモシリ前路諸島ノ蝦夷各其在所ノ島々ニ歸ケ

レバ赤人俄ニ襲来シテ盡クシモシリ諸島ニ討勝タリ

レヨリ以来シモシリ前路ノ蝦夷殘ラス赤人ノウタレ 家

リトナル然レモウタレト成リシニテニテ其風俗ハ蝦

夷トリシガ近比ハ全ク赤人同様ノ風俗トナレリ

二十年前以来赤人ヨリシモシリ前路ノ蝦夷人エ数エテ

髪ヲ結ハシメ鉄炮玉藥ヲ与ヘ着類ニテモ盡ク赤人ノ

風俗トナレリ 右ニテ余ハエトロフク
ナシリニ名ノ語ヲ記ス

安永初年獺虎島ニ赤人六十人余渡来ニテ所ニ小屋ヲ

掛ケ其小屋ハ長十四五間高サ五六尺ノ土手ヲ築キ上

ニ桁ヲ揚ケ中ニ柱四五本立テ棟木ヲ渡シ草ヲ以テ葺

キ煙ヲ墜リ砂ヲカケ小屋ノ内ニ床ヲ作り出入ノ口ニケ

所ヲ土手四尺ホトニ叩開キクルリ仕掛ニ板戸ヲ建テ窓

ハニニト所ニ明々住居スツレヨリ日々ニ海上ニ差綱ヲシ
テ朝夕小船ヲ以テ掛ケ試ミ綱ニ入ル獵虎ハシメ殺シテ
又綱ヲ張ルナリ赤人云ウルツプハ左ガカムイ 魯西亜国一
王ヲ云
ノ島ナレバ提心所ノ獵虎ハ殘ラズ左ガタノエ出スベシ他
エ驚ベカラズトエトロフ乙名ハツパアイヌ云此地ハ古来
カムイトノ、島ナレバ獵虎ハニシバ役人エ出スナリ汝等
此頃初テ渡来氣随ナリトテ争闘シ双方手負死人少カラ
ズ其後イカナル故ヲ和談シテ安永七年赤人初テノツカ
ニツプエ渡来セシハクナシリ嶋ノ酋長ツキノイ案内
セリ赤人云国ノ名ヲヲロシイヤト云城下ノ名ヲムスクワ
ト云濱ノ名ヲカムサスカト云湊ノ名ヲヲオホツコイト云
安永二三年ノ頃 一説ニ安永
九年ト云 ウルツプ嶋ニテ赤人ト争
闘セシ起リハ赤人ノ宝トスル太刀ノ類古木ノ穴ニ隠
置タルニ赤人ソノ木ヲ伐取り太刀等ヲ見出シ奪ヒ取
レリ赤人ハ償ヲ取ルベキトテ言フノリ双方争鬪ニ及
ビ兩三年モ取合双方横死ノ者モアリケリ
安永七年六月九日東蝦夷地ノツカニツプエ ノ内モハ蝦
夷船ノ如キ異船ニ艘ニ異国人乗組外水先トシテエトロ
フ嶋ノ赤人一艘薄暮ニ渡来シ湊近所ニ至リ鉄炮ヲ打ツ
蝦夷人トモ驚キ騒ギケリ程ナクエトロフノ赤人上陸

シテ全ク争鬭ノ事ニ無之赤人トモ日本人ト對面シタキ
トテ渡来セル由云ノヨリ赤人トモ上陸シ濱辺ニ飯小屋
ヲ掛ケ扱赤人ノ通詞セルシモシリ島ノ夷人ヲ以テ云ケル
ハ倭夷地ニ日本人詰合ヨシ兼テ承リ及ニヨリテ對面ノ
事願フ所ナリト頃アツテ夜ニ及フ松前吏人<sup>上乗役新井
田某目付工</sup>
<sup>薩某通詞
村右衛門</sup>異国人ニ對面夜分ハ如何ニハ聖朝達ベキ
ナリト答フ赤人再三願ヒケルハ日本人此所ニ詰合フ
ヨシ承及ニヨリテ遠海渡来不案内ナル當所ニ来リシ
ウヘハ夜中ナリトモ對面ナケルハ安心セズ是非對面ノエト
願ノ由強テ訴ルニ依テ運上屋ニ呼寄セ對面セリ則飯小
屋ニ歸リ其夜鉄炮用意セル赤人四五人其傍ニ夜番セル
ニハ吏人ヨリ倭夷人ニ理不尽ナルヲセザルヤリニ令テ
赤人ニハ安堵シテ休息スヘシト云送りケル番人ハ引取
ケリ翌十日シモシリ通詞夷人ヲ以テ赤人云ケル日本
ノ產物ト交易ヲ望ミ少々仕入ノ荷物手本物持来レリ
交易ノ事殊ニ願フ所ナリト吏人云異国人交易ノ事ハ
松前ノ指揮ナリテハ成ラザルヲナリ今年ハ歸国スベシ明
年夏ニ至リエトロフ島ニテ有無ノ返答スベシトテ早々
歸帆セルヤリニ云ヤリケレバ十二日ノワカマツテ出帆
歸島セリ其時赤人ヨリ松前領主ニ音物書簡ヲ送レリ

其書簡音物ハ上乘役松前工持歸レリ翌八年夏赤人エ
去年ノ返答スベシトテ松前ヨリ異国人應對ノ吏人ヲ出シケ
ルニ順風ナクシテ延着セリ赤人ハエトロフ島ニテ待居
タリケルガ黙止カ子クナシリ島ニテ渡来ノ処何タル沙汰
モナキニヨリ又ノツカニツプ迄渡来待居ケルガ一切ニ沙汰ナ
カリケレバ待兼ケルニヤ漸々ニ進来リアツケシノ内ナクシヨ
迄渡来セリ松前吏人ハ赤人應對ノ為メ選スル所濱利某松
三右衛門 四月廿九日松前出帆南部佐井湊ニ入津順風
ナクシテ八月四日迄滞船同七日初テアツケシ着船ノ処ニ
赤人トモ待兼テ漸々ニ押詰メ来ル由聞之ナクシヨイ迄

出張リ赤人エ對面セシニ日本產物ト交易ヲ願フ由ナリ
則吏人ヨリ赤人エ諭シ之ハ異国交易ノ所ハ長崎一所
ニ限リ其他ハ国法制禁ナルニヨツテ何年ノ願アル氏叶
フベカラズ以来渡海無用ナリト云聞カセ且船中用意
飯料トシテ米十五俵酒煙草烟管等サシ遣ス赤人ヨリ
返礼トシテ上乘三人エ砂糖三包月付二人エ二包桐贈
リ赤人ハ直ニ歸船セリ
以上三条ハ天明五年帳表地請
負人飛彈屋ナカ者ノ書付ト松前
通詞林右衛門ノ書
付トヲ併セ載ス

安永八亥年渡来赤人ノ名 シンサバクン 頭主タル者ナ
糸ノ焼ケタルカ如ク眉毛ハ白シ上着ハ花色羅紗股引白天
鵝絨笠黒ビロウト緑ハ獺尻皮ナリ皮ノ鞆ヲハリ赤人ハ髪ニ

十赤 正バンテ

日本工通詞ノモノリヤリツコイノ役人ナリト云上着

白ナリ ハカキ色ノラシヤ

下着ハ花色ヲシヤ股引ナキ色ヲシ

ヤ笠ハ黒ビロウト緑ハ金糸大カ

キシニコンテ カムサスカノ人ナ

ラ帯ス銀ノ鞆皮ノ柄鐔ナシ

リ上着鼠色羅紗

下着同シ股引リエント

ムシクワノ人ナリ上着花色木綿下

フダ色木綿

着フダ色木綿股引メリヤス被リモノ

鼠シリイタリ

此ハ假夷人ニシテ赤人ノ通詞ヲス髪黒シ惣心

色シヤ耳

昨エハ人ニ同シ上着紺色ノ唐木綿下着モヘキ色

金ハナシ

交易ハ羅紗猩々緋棧留奥島更紗皮類藥種類

牛馬鳥獸類砂糖漬類何ニテモ好次茅交易トシテ持渡

ルベキ由云 此一條ハ赤

天明五巳年赤人三人エトロフ嶋エ度来シヤルシヤムト云所

エセケ年滞留シ寛政三亥年本国ヨリ呼ニ来リ帰国ス

ト云其長ハ名ヲシメラント口ヘイイシユソヨフイシユト云

イルコラツカノ人ノ由其次ハイワンエレコイイシユサスノ

スコイト云ラホツカノ人ノ由僕一人アリ名ヲニケタト云イ

シエ云ウルツプエ赤人多勢渡来セシニ船中ニライシユハ

外赤人ヲ手荒クセシエヘ恨ヲ生ジ同船ナリガタク依テ

エトロフ島エ逗留ノ由ヲ云フ其後クナシリ迄渡来シ其

時常矩應對セシニ松前ヨリ長崎エ至ラハ紅毛船エ便乞シテ

帰国ヲ乞ト云ヘリシヤルシヤムノ家ノ前エ宗門ノ十字杭ヲ

立テ夷人エ宗門ノ荷兎等ヲモ教ヘタリ又其国ノ傳馬

ノ證文ノ由ニテ大節ニ所持セリ方五六寸ノ紙エ横文

字ヲ書キ下ニ細キ糸ヲ輪ニシテ結ニ目ヲ作り此結目

一ツアルトニツアルトニテ傳馬ノ差別アルト云其糸ノ上へ彼
國ノ幟ノ判ヲ押シタリ此證文ヲ持テハイスパニヤイタリヤ
其外ノ諸蠻國ニ往キテモ往來帶ルナシト云ヘリ後ニ夷
人ノ言ヲ聞ニ赤人ドモ云ケルハイニ事數年エトロフニ帶
留遠キ嶋々ニテ見究メタリトテ國王ヨリ賞セラレシト云
エトロフ夷人ハウシビト云モノ赤人ノ風ヲ學ビ髮ヲモ長
クシ（夷人ハ髮ヲ切ルナリ）赤人トハ殊ニ親シカリシ由シ寛政戌
申年守重エトロフニ至リシ時シヤルシヤムニテハウシビヲ
呼出シ赤人ヨリ何事學ビタリヤト問ケルニ赤人ヨリ佛像
ヲ與ヘ拜咒ヲ教ヘ云ケルハ此佛像拜咒ヲ尊信スレバ漁
業モ盛ニ難破船ノ患ナク其外願フトコロ叶ハズト云フ
ナシト其拜咒ハ何ト云ヤト問ヒシニハウシビ云テ赤人ノ
如ク三ツ指ヲ聚メ額ト胸ト兩脇ヲ指シヲホフボミボミ
ロイト云フ唱エ言フ三度トナヘテ拜シタリチ。プカ夷人
イチヤンケムシ亦同シ

天明六年四月赤人ノ船東海ヨリ來リ廻リ松前ト南
部津輕ノ瀬戸ヲ西海ニ帆セ出テ松前ヨリ三里ホド西北
エラフ村ノ沖ヨリシマコニキ村ノ沖ニ繫ル時ニ倭夷人
漁船ニテ出ケレバ手招シテフラスコエ酒ヲ入レテ與ヘリ
寛政八辰年八月東蝦夷地アブタエイギリスノ番船一艘

番人百十人乗ニテ渡来ス武官ノ内ニ魯西亜人一人アリ
テ松前人エ通弁セリ

寛政七八年ノ頃赤人ノ大船一艘六十人内女三人クルセ
ノ蝦夷一人乗組ヲ弁サスガヨリ出船ノ由ニテ同年九月ウツ
ノ嶋エ渡来リニナウト云所エ上陸シテ家倉ヲ作り在住ス
初辰年ニツコタンニ住セシガ三人死シ巳年三月二十八人
帰国午年五月十四人帰国シ残十七人内女三人ハ^{此人数ハ}
死失帰国モアレ今ニ居残り蝦夷人エハ年々帰国スベシト
欺テ更ニ去ラズ其赤人ノ頭タルモノ二人アリニイタラシ
ト云モノハ午年帰国ス今ハケ子トブシト云モノ残りテ在

留シ赤人ノ子モ出生シテ既ニ五六歳ニ及ベルアリ其率エ
ル所ノ夷人モ亦赤人ノ風俗ニテ髪ヲ結ビ鬘ヲ利ルシモ
シリ嶋ノ夷人シレイタト云モノモ来リテ赤人ノ通詞ヲナス
鉄炮玉藥ハ夥シク貯ヘ置キ十年余常ニ用ユレモ今尚貯
ヘアリ赤人ノ内鍛治スルモノモアリ大ノ如ニテ毛白ク
尾長キ獸ヲ持渡リ畜ニ置タリ其小舟ハ二品アリ一ハ皮
ニテ張り木ニテ骨ヲ入レ用ヒサルハ木ヲ弛シ皮ヲ疊
ム大サハ^ツ圖合舟ヨリハ小ナリ蝦夷ハトンドチ^ツプ^ツ云赤
人ハニイタレト云一ハ木ニテ造ル蝦夷ハロクンドト云赤
人ハポロシヨシナ^ツイ^ツ云赤人来リシ初アツケシノ七名イコ

トイモ此嶋ニ近年シ赤人トハ殊ニ親シクイコトイヨリモ
赤人ノ国王エ獵虎皮ヲ献ジタリ前々ハ赤人トモ蝦夷人
エ對シ格別親ミタルヲモナク又毎度漁場ヲ争ヒシヲモ
アリケルニ辰年エトロフ蝦夷トモ赤人在雷後初テ渡海セル
キニハ赤人格別ニ夷人ヲ親ミ厚ク丁寧ヲ盡シケリエトロ
フ夷人例年ノ如クウルツプ渡海セシニ赤人ノ家アリシユヘ
不審ニ思ヒ沖合ニ迎峙セリ然ルニ赤人小舟ニテ出迎ヒ
酒烟草等飲セ悉ク馳走セリソレヨリ日々飲食砂糖ナド
贈リウタレニ至ルニテモ酒食ヲ以テ饗待セリ其上獵漁
ノ事モ前々ハ常ニ爭論アリケルガ此度ハ然ラズ蝦夷人

トモ獵虎ヲ持住キ賣ラント云ハ日本エ出スベキ產物ナレバ
買フベカラズ輕物ハ日本エ出スベキナト云日々引綱ヲ以テ
漁事シテ其魚ハ半ハ蝦夷人エ分チ與フ赤人云向後年
年日本ノ產物持来ラバ彼国ヨリモ品々持越シ交易スヘ
シ蝦夷地ニハ日本人モ来リ居ルユヘ日本ノ產物多カルベシ
何品ニテモ持来ルベシ其内皮類尤モ望ム所ナリ又米ハ格
別ニ珍重ト云夷人ヲ見ルゴトニ日本ノ米ハ所持セズヤト
再三問フコトナリ来スヲ渡スベクハ反物類何ニテモ交易
スベシト云其赤人ノ名
ワシレイコンニヲフズエズトシケレトブセ
長タル者イリコ
ウツカノ產五

十歳 イエフテベイワブセン 四十歳 イワンゼリヤン 三十歳
ニクセムカアセン。ステパンドニセフ 四十歳 ミハイランク
ジ子エゴフ。ミテレイセレエヘンエニゴフ。ニハイランレイ
ニコフ。ダニハ。ホトフ 五十歳 ステバンガザニツラウフ 三十歳
ラニシヤアレキセエワ 三十歳 ニイワンドロヒム 三十歳 女ニ
人ゼナンエランノヲリイナ 三十歳 セラニシヤアレキセエ
ワ 三十歳 女子三人ナタリヤ 六十歳 ヘドシヤン 四十歳 ヲリ
イナ 三十歳 右赤人ナ今ラルワプ嶋ニ在留シテ去ラズ

ハンベンコロウ 燈標此事收載北邊探事補遺中若標極詳可參觀

明和八卯年阿波ノ海濱ニ異國船漂着シ其後琉球国大
嶋ニ其船着岸シテ同所ヨリ長崎在留紅毛加比丹ニ書
簡ヲ送ル蓋阿波ノ大守薪水ヲ賜フノ恩義ヲ謝シ且松
前殿夷地ヨリカムサスガ述ノ要害油断スベカラサルヲ告ケ
越セシナリ其加比丹ニ送リシ書簡ハ其時長崎ニ於テ通詞
シテ譯サシム其文下ニ載スハンベンゴロウノ事魯西亞ニテ
名ヲアウスト云元来ポリシヤ国ノ士ナリシガ故アリテモスクワ
ニ因レタリ類悟ニシテ卓量アリシ豪傑ナリ非理ナルヲアリ
テラホツカトカムサスガトノ間セレホレツコイセカーフカト云
所ニ左遷セラレテ居タリシ時イウコイロフ。パセローフト
云二人ノ官セロシヤエノ貢物ヲ積シ大船ニ乗テ此所エ

来ルアウス曰我願クハ假虎及日本ノ東海ヲ廻リ南洋ニ
出テ本国ニ歸ラント志スニ今時ヲ得タリトテ狼籍ニ其船
ヲ奪テ開帆セントスイワコイロフ大ニ怒ルバセローフ曰日
本ノ東海ヲ廻ルヲ幸望ム所ナリト共ニ船ヲ出シ南方ニ
針路ヲ求メ開帆セシガシモシリ嶋ハ善キ湊アレバ此ニ
船ヲ繫キ薪水ヲ取りタリイワコイロフハ船ヲ出スヲ
肯ゼズ於是大ニ打擲シテ砂濱ニ弃置テ出帆スイワコイ
ロフ則チ假虎人ト共ニシモシリヨリカムサスガニ歸ル帝其
心ノ堅キヲ賞スアウスハ日本ノ東海ヲ廻リテ針路深
淺ヲ測リ四国ノ阿波ニ船繫シテ薪水ヲ取ル時ニ阿波
ノ国主厚ク撫卹アリ夫ヨリ阿波ヲ出帆シテ琉球国大
嶋ニ至リ同所ヨリ長崎ノ紅毛加比丹工書簡ヲ送りテ
阿波ノ国主ノ恩義ヲ謝シ且日本ノ油断スニジキ由ヲ
告ケ越セリ夫ヨリ大竺ノ南洋ヲ廻リラウンス国ノバテリ
ト云所ニ着船シテアウスハ又其地ニ居ルト云ハセローハ
船師ヲ率テ本国ニ歸リ日本及假虎ノ地理南洋ノ方程
ヲ言上ス帝ヲ大量ニシテ智謀アルヲ賞シテ褒美ヲ賜
フト云其横文字七通アリ則紅毛通詞ヲシテ加比丹工
古加比丹ガニールアルメナウルト問ハシメ譯セシム
新加比丹ア、レントラエルムヘイト
千国ヨリ加比丹工書簡ヲ送ル加比丹長崎ニ簡来リテ出ストモ
云一説ニ安永ハ亥年長崎渡来ノ紅毛人トイテ千国ヨリ其

書簡ヲ持来テ国主工送ル則江城ニ出達ニ
長崎ノ通詞ヲシテ譯セシム此二説恐ハ非ナリ
其七通ノ内二
通ヲ左ニ載ス

ウシノ人エ

下ナレウシノ人エ
内大砲ノ人ノ中依ニおす

異國ノ八月上旬ウシノ人ニ陸仕居ル所及横濱ノ船仕方等
お款ハ不備ノ人未水薪菓子類多お款ニ仕居る者等宛
各存至ケ澤商有右迄札送送りお款無クハ御國ノ人
情厚キ事思依難御事等

お款人ニ事あり阿比多夫

ニ送リ

長崎ニ至リ阿比多夫ハ各職長ハ頭役ノ人ニ

昨日ノ難風ニ遭海ノ人甚多由再ハ日本ノ地ニ漂流
イテ懇切ニ度々以御中ノ様々御會を
不祥事不幸ニ至リニ書ニ信を以し者我
今年カリヨウト船被破フレガトモ被破モ
亦ハ命ヲ惜要客ニため日本國ノ船ヲ乗過リ者又一
ニ集リハ答ニ
下ナレカリヨウトモフレガトモ船ノ名モ
中志ル國ハ必客者ハハ事案ニ事アリ
此ハ不備ノ人未水薪菓子類多お款ニ仕居る者等宛
各存至ケ澤商有右迄札送送りお款無クハ御國ノ人
情厚キ事思依難御事等

量松前迄送る者ハ

かむ支加ハておく迄おくれリ又与中砲

此石之要也武母知也

木一工一テ一ス一ヤ一ム一云
紅毛頭分々人々
柳茂

紅毛西鯨分々人々
御免

石隱齋告知うや夜心作
妙新書と題し
以年元月
敬啟

凡天下之族亦禁中以今家之位を盡し以て友を交

此乃必希の
 此エラ口ハ
 人物故に半
 三の所ニ去
 去

邦の如きは其害を防ぎてしと僅に告報す

千七百七拾一年十一月廿日

守重曰千七百七十一

ウシニエあわて

則明和八年二當儿

三二
おひ
大徳上人と云門阿^らなる人^が金^に
なり

一德萬如德人有以八如七志則其如海邊一德也

茂可有此六字述書如止志以丁知繪是殘卷以

由おえに中

一此稿江耳り少部
かむ走るんてかゝ
品多校正部未若

涉用之者乃成爲事

荷蘭全世界地圖書譯二云

一、符号ノ横文字、文ニ云、此地、面ハリユスラント

国則三ノ関老ノ筆記
ヤリ
紋ヨニ子スケイリ口ウト云シモノ一千

七百三十四年ニ當テ出ス典フル地圖ニ從テ正補シタル

地・苗ナリ船主スパンペルゲト云シ者ヤムシカツトノ地ヨリ

船ヲ乗タル
説ヲ
記録ス
三ノ
符号ノ
横文字ノ
文云去ル

土曜日に當てカムシカワトリ地ノ説ヲ記シテ此地ニ飛脚

一人参看セシナリ船主スバンベルゲト云シ若カムシカフトノ
地ヨリ大船四艘ヲ以テ海ニ浮ミ十六日海路ヲ乘リ大小
ノ嶋三十四島ヲ見開キ彼陸ニ至ラント思ヒ小船ヲ六
艘造リテ之ニ乗リ彼地ヲ見開シガ為ニ人ヲ陸ニ至ラ
シム土人丁寧ニ應對ス言語ヲナスフ能ハザレバ錢ヲ見
セシム船主ノ上ニ裁配ノ人ニヘヤリシキト云シ人アリ彼レニ
此度ヲ知ラシメズシテ船主自ラ彼ノ地ニ至ランフヲ議シ
船主カ大君ノ重ニ一変ナル故ニ人ニ知ラシメズ彼ガ利欲
ニシテ巴カ大君ノミニ披露セシフヲ思ヘリ是ニ因テ裁配
ノ人謀ラ成シ彼ノ地ニ至リテ春ヲ歷タリ意フニ日本ノ

嶋ナランカ彼ノ地ヨリ持来リシ一紋ノ小銅錢大サ和蘭錢
ノ如ニシテ少ク厚ク平ニメ周郭高シ中ニ方孔アリ其
方孔各方ノ傍ト線トノ間ニ一面ニハ文字アリ日本ノ文
字或ハ支那ノ文字ナランカ一面ハ無字ナリシトペーテル
スビルクノ地一千七百四十年正月十三日

舊書云^{万国傳信紀事ト云モノ}コ^ヲ譯テ^テ王国^{西州里亞}此地極テ廣
大ニシテ沙漠ヨリ北ノ方氷海ニ傍テ其東ハ東方ノ大
洋ニ至リ蝦夷ノ東北カムシカフトニ至ルマデ皆此部内
ニ隸セリ

蝦夷及紙云魯西亞人イシユ云カムサスガノ北ニ千ヨウキ

ナト云国アリ北極六十度ニ及フト云蝦夷ニモアラズ魯西
亜ニモアラズ国主モトカリシカ近來魯西亜ヨリ服從セシメ
国ノ名ヲ改テアナカデルスコイト云此国ニ大河アリアナデリ
ト云因テ名トスラレニト云獸アリ此国ヨリ北ハ小島フギニテ
四時氷海ナレバ通船スル能ハズ北極六十余度ニ及フト云此
国ノ人山獵ヲ業トス

一書ニ云 最上常紀 赤人イシヨノ記スル所渡海ノ里程左ノ

如シ

ノワカニフブトクナシリノ渡 六十エルスタ有リ即クナシリト

エトロフノ渡 二十一エルスタ エトロフトウルフブノ渡 六十五

即十八里 ツフ徑 百五十一エルスタ即 ウルフブトナシリノ

渡 三十五エルスタ ナシリノ間 二十五エルスタ ナシリノ

シモシリノ渡 百エルスタ即十 シモシリトカムサスガノ渡

九百エルスタ カムサスガトヲ ホツカノ渡 九百エルスタ シモ

即二百五十里 シリトヲ ホツカノ渡 九百エルスタ

第一冊 魯西亜國紀聞 魯西亜國紀聞云 全キ 聘使アタムラクスニシ

リナミシヤツカ家數百四五十軒代官在テ守ル大川アリ

船ハ川ノ内エ入レ置クヨキ澗泊アリ シカミシヤツカヨリ アミ

數凡 四里 同所ヨリ千キリ迄三百七十里山越路ナリ家數凡

二百軒代官アリ千キリヨリ ヲ ホツカ迄海上里數凡八里里

代官アリ大船川ニ入ル湊ハ海底砂ニテ淺シ故ニ汐満ル
ヲ窺ヒ船ヲ入ルナリ陸ヨリ二百間斗リ沖ニ右砂瀬戸アリ
外ニ間泊モアリ戸數凡二百軒余同所ヨリヤコーヅカ迄
山越路凡千十三里代官アリ戸數凡五百軒此地晝夜瞭
瞭トシテ明ナリ然レ氏暮ニ至テハ少シ暗シヤコーヅカヨリ
イルコーヅカ迄里數凡二千四百八十六里川ヲ沿フル中
三百五十里ハ旅館アリ戸數凡二千百六十軒代官アリ
カミシヤヅカ。千キリ。ヲホーヅカ。ヤコーヅカ等ノ代官
ハ皆當所代官ノ配下ナリ同所ヨリ魯西亞ノ都ベテルホ
ル迄凡五千八百二十三里古都モスクワヨリ今ノ都エ五
一里日本ノ一里ハラロシヤノ三里ト日本
ノ間ニテ二百六十間ナリイルユウヅカヨリ満
州迄ト云凡四百五十里大川アリ兩國ノ境トス川ノ
名ヲエレカアモーロト云黑龍江ノナリ支那ヲキタエス
コイト云支那ノ都ヲペーキンント云玉ヲパント云サバリシ
島周廻凡七百里支那ノ夷ゲレヤスト云者居ルヲホーヅカ
ニ阿蘭陀人六人住居スルト云イルコーヅカ。ヤコーヅカ共ニ
雪ヲラス寒氣ハ至テ甚ト云ヲロシヤ人冬ハ雪橇ニ乘リ
テ往来ス橇ハ犬ニヒカセルナリ犬ハ皆尾ト陰囊ヲ切ル
又馬モ陰囊ヲ切ルナリ如此スレバ精氣衰ヘズシテ強シト
云陰囊ヲ切リ玉ヲ取り捨テ其アトニ臨ヲ入テ縫トナリ

アノリカ人鼻エ穴ヲ通シ牛ノ鼻グリノ如クシテ骨ニテ
牙ノ如ク捺エ其穴エ通シテ下エ垂ル下唇ヘモ穴ヲ通シ
骨ニテ牙ヲ捺ヘ下ケ置其人此度兩人来レリ守重云壺
書ニウエ
ホフニ北アメリカノ人類
ニ牙ヲ通セシ面アリアミシイフカノ女下唇ニ穴ヲ通シ
骨ニテ牙ヲ捺エ其穴エ通シ下ヘ垂ル惣身文ニスヲロシ
ヤ国ノヲホーワカヨリ松前ノ東夷子ム口延海上里數凡
千九百里

邊要分界圖考卷之七

魯西亞考

ヲロシイヤ國ハ我假夷地東ハウルグフ嶼西ハカラフト地ト相
隣リテ唐山滿洲ト其境界相接シウルフハエトロフ島
シモシリ嶼ヲ以テ前後フ界トナシカラフトハミゴ則里施江
混同ハス
ノ大河ヲ以テ假夷滿洲魯西亞三國ノ境トスルトキハ
第一卷外界ノ
面ヲ見テ知ルベシ是亦其國ノ事明カニ知ラズンバアルベカラス
魯西亞人ノコト假夷地ニテハフーレシヤムト云カラフト地ニハ
エチヤクレト云フーレトハ赤ノ夷言ニシテシヤムトハ人ノ夷言ナリ
其人初テ夷地ニ渡来ノキ程々緋ノ服ヲ着セシ故ニ夷人

之ヲフリーレヤト呼ビナリ松前人譯シテ赤人ト云ヒ又
赤帳夷トモ呼ビナリ我邦ニ於テ初テ其国ノ事聞エシハ
元父四年己未房州奥州ノ頻海エムコトビヤノ望船往
来シ上民エ銀錢等ヲ與ヘシヲ以テ初トスベキ歟蓋人ノ
カカムストロム此時大船ニ乗テ諸国ヲ廻リシ由詳ニ下ニ見ユ此事
亦書ノ説ト組合ス又長崎エムユトビヤノ使傳來セシ何レノ頃
未蓋シ是ヨリ前丁巳ノ年ロシヤ国女帝カタアリナアル
キウナノ時其邦ニ於テ始テ日本支那交通ノ事ヲ會
議セシ由其国史ニ見エタル中一年ヲ隔テ、直ニ日本海
エ来船セシニ疑ナカルベシ其事ロシヤ本紀其ヨリ明和安永
ノ間頻年奥帳夷地エ渡來シ就中明和八年丁卯ニ

ベンゴロウナルモノ夷地ヨリ東海ヲ廻リ四國阿波ニ船繋
シテ琉球大島ニ至リ書ヲ長崎在留ノ紅毛加比丹ニ送
リテ松前及ヒカムサスハ要害ノ事ヲ告ゲ安永七年戊
戌シンサバクシンナルモノ夷地アフケシエ渡來シ松前吏
人ト應對シテ交易通商ノ事ヲ謀ルニ至ル其事詳ニ
ヤ始末ノ但魯西亞ノ我奥帳夷地ヲ盤食セシコトハ
部ニ載ス我邦ニ記ナケレバ其初ハ詳ナラズ姑リ查書ニ據テ考
ニ我元祿十一年ロシヤ人始テ我カムサスハ地ヲ過半
販從シカムシカフトカハ本我帳夷ノ居地ニシテクルムセト云ル一
種ノ帳夷人ノ住所ナリシニ今ハロシヤノ為ナニ候否セラ
レテ代官ヲ置キ此島ヲ築キ鉄炮ヲ備ヘ遠ニロシヤ北海ノ要
津トナル嘆クヘキノ至リナラズヤ然ルニ不知モノハ誤テ元來ロシヤノ地ナリ

トス不給之甚ナリ凡帳夷ハ密日本ノ属国ナリクルセモ則帳夷
九トキハカムサスカ邊ニ日本ノ属国ナリシ其証顯然タリ詳ニ
知弗加ノカムサスカノ部ニ見ヘタリ

正徳五年ニ至テ遠ニ悉クカムサスカ及
近傍諸島ヲ服從セシ由ニハタリ然レバ八十年前ヨリ漸々
東奥帳夷地諸島ヲ蠶食シテ三十年前遠ニシモシリ
島ニテラ俟吞シ二十前ヨリ諸島帳夷人ノ風ヲ改テ魯

西亞ノ俗トナスニ至ルコト老夷ノ口碑以テ證トスルニ足
ル詳ニ知弗加西奥帳夷地カラフトニ至リテモ魯西亞人
考ニ載ス

シバク往來スルコト其心ニハ測ルベカラズ
又我邦ノ人魯西亞國ニ到リシハ守重
三度宝曆三年南部ノ者十七人天明二年伊勢ノ者

十七人寛政五年仙臺ノ者十六人漂着シテ今現ニ
其國ニ残リテ日本ノ言語文字ヲ教傳シ南部ノ者

勝右衛門ヤ魯西亞ニ生シ子ベイタラシヤノ如
キハ天明三年帳夷地ニ來舶シ久助カ子イワンヒリホイ

チタラヘースニコフノ如キハ寛政四年其聘使ト共ニ父母
ノ國ニ來舶セシガ如ニ至ル

ノ國ニ來舶セシガ如ニ至ル
テリスノ國ニ往キシ一有シガ日本ノ事ヨリ知リテ最可畏國風ナリト
云レ又ハ唐人唐山ニ至ル一有ヤ唐人ニ問シニ唐山ニテ嘗テ見
タルアリト劉其國使聘ノ來リシコトハ寛政四年其女

帝エイカテリナアレキセウナヨリ
イ千ヲクスニシテ使テ我漂民ヲ送テ松前ニ來舶シ文

帝エイカテリナアレキセウナヨリ
イ千ヲクスニシテ使テ我漂民ヲ送テ松前ニ來舶シ文

化元年其国主アレキサンドルヨリ使節レサフヲ使テ

国書方物ヲ捧テ長崎ニ入津セシヲ初トスベシ唐山ノ

書ニ於テ魯西亞ノ事見ヘシハ清統志ニ載スル所ハ史

記漢書ニ下党堅昆アリ唐書ニ黠戛斯骨利幹アリ

朱覽異言ニモスユビヤ和蘭人所説此唐書所載黠元史ニ
受斯同ト云ルハ古人能書ヲ讀ト云ヘシ

阿羅思及ニ吉利吉思總合納益蘭州等アリ俱ニ今

魯西亞ノ地ナリト云職方外紀初テ莫斯科未亞ノ名

ヲ載ス清滿洲ヨリ興リ遠ク北塞ヲ開拓スルニ及テ遂ニ

其国境界ヲ接スルニ至ル初ハ滿洲里訖江ノ上流ニ雅克

薩ト云ヘル地アリ魯西亞人此地ニ城ヲ築テ邊境ヲ侵

擾ス又呼麻拉ノ地ヲ蠶食ス康熙二十三年寧古塔ノ

副都統薩布素ニ命シテ布素後ニ里訖
江將軍トナル舟師ヲ率ニ里訖

江ニ溯テ之ヲ伐タシムニ十八年其城ニ克フ則チ大臣

ヲ遣シ魯西亞ト約シテ里訖江城ノ西北松爾必齊河

東ニ分界ノ碑石ヲ立ツ之ヲ界碑ト云其約束ノ文此
下ニ見ユ

邊ニ於テ毎年交易互市ノ事アリト云其使聘ハ順治

十二年ヲ以テ初トス三朝實錄池北偶談ニ順治十三
年十七年並ニ使ヲシテ進貢ト云

魯西亞本紀ニ康熙二十八年支那
北京ニ使節ヲ通ト云未知孰是其レヨリ以來時々相往

來シテ初テ其国事ヲ詳ニスルヲ得タリ康熙五十二年
面理琛ト云

国ニ使セシトキ口シヤ国内ヲ經テ
其山川風土ヲ著セシテ統志ニ見ユ魯西亞ノ名乾隆御集ニ俄

鄂羅斯界碑

羅斯又羅義ニ作ル三朝實錄ニ倭洛斯又倭洛思ニ
作ル清一統志盛京通志ニ鄂羅斯又羅利ニ作ル清
會典奉使日記西域並海國聞見錄共ニ俄羅斯ニ作ル
訖沙紀畧ニ俄羅斯羅利老鎗先魁ニ作ル皆ゴロース
ノ轉音ナリ
老鎗ハウシヤノ轉音ナルベシ倭文獻通考ニ羅
利國アリ朱髮黑身隋ノ大業三年使ヲ其國ニ
遣ト見エタル別ニ南海ノ國ナリ又朝鮮
人海東諸國記ニモ日本ノ東南ニ羅利國アリ披閱ノ次テ事ノ
俄羅斯ニ與リテ邊要ノ一助トナルベキモノヲ採録シテ
左ニ舉ク
曜曰唐山ノ書俄羅斯ノニアバカルモノ余
別ニコレヲ錄セリ故此ノ下ニ贅セズト云

右兩國約束ノ碑ヲ名テ界碑ト云ナリ唐山ニテモ俄羅斯

斯ノ後世ノ患ヲ為シテテ慮リテ此ノ碑ヲ建シナレベシ境
ノノ定メナケレハ戎狄ヨリ中國ノ地ヲ侵セシトテモ緯ノ咎ム
ベキヤリナケレハナリ今モ百姓ノ境論ノ如ク奉行ノ裁斷
アレハコノ如ク事スナリ兩國ノ境論ニ至リテハ其證據
ナキ片ハ互ニ曲直ヲ相争フベシ相争ハ八虞芮ノ如ク相
讓ルモノハアルシ然レハ兵ヲ起シ士民ヲ害スルノミナラズ邊
釁一タニ起レハ戎狄ハソレヲ以テ名トナシテ清太祖ノ明ヲ
伐トキニ天命三年七大恨ヲ書シテ天ニ告ト云ヤ如ク假託シ
テ事ヲ生スルナリ
其朝鮮ヲ征セシ後モソノ國ニ命シテ碑ヲ
立シメ其碑文ニ大清崇德元年冬十月有二月
寬溫仁聖皇帝以懷和自茲始赫然於武臨之主恃而東ト
載セタリ和ヲ懷ルハ朝鮮ヨリスルト書スルハ後世緯ナカラシメシニ為リ

此事ノ緯命ハ本邦及唐山ノ人ナトハ猶ハサルナレモ唐ノ人ハ
理屈ヲヨリシテ已ニ我賊夷人モ常ニ此等ノ緯ヲ以テ種ヲ時キ人ヲ
多シシ^{多シ}世ノ遠謀ニ味ナル人々ハ唯夷狄ヲ制禦セスシテ
無為ニ弃置ヲ以テ上策トシ夷狄ノ取り究ヲツケタ上
後世夷狄ヨリ事ヲ生スルモ此方ハ緯ヲ以テ勝ツヘキ
基ヲ堅メヲクラフ以テ却テ邊釁ヲ開ナト云ヘハ時務ニ
不通ト云ヘシ漢ノ武帝ノ如キ古来道路モナキ國々迄モ
遠征スヘシト思ヒシ類ヨリ邊隙ヲ起スルモ云フヘシ鄰境接
界ノ地ハ此方ニ備ナケルバ我狄ヨリ蠶食シテ其終ハ制ス
ヘカラサルニ至ル遂ニ詞ノ緯スヘキナク地ヲ割キ幣ヲ懸テ
和好スルノ類古来其制多シ詩ニモ經一箭張レハ人容

易ニ入ラズト云ヘリ門戸ガニ設ケハタトヘ明バナシナリトモ
出入ノ人ヲ咎ムルニ緯アラニ門戸ナクバ往還モ同シ誰人
闕入スルモ咎ムルニ緯アルニジ鄰家ノ境ニ垣ナクシハ瓜蔓
ノハハコルモ攘フニ緯アルニ況ヤ兩國ノ境界ソノ定メ
ナカルベケンヤ今ロシヤノ分界之碑ヲ録スル序デモ唐ト吐
蕃ト約束ノ碑ヲ舉テ後世ノ戒ト為シ且唐山鑾貂トモ
此等分界ノ定ヲ嚴ニスルノ俗ヲ見セシムルナリ唐山ノ西
四川雲南ノ邊徼ノ西ニ西藏ト云大國アリ其地四ニ分
ル衛藏喀木阿里ト云古昔ハ微々タル羗戎ナリシカ漸々
大ニ成リテ唐ノ時ヲハ吐蕃ト云度々唐ト戦テ唐ヨリ

公主ヲ以テ我狄ニ妻スニ至ル其後衰弱ナリシガ又漸々強

大ナリテ其國王六法師ニ元明ノ時ハ大宝法王ナド云ヘリ

清ノ順治九年ニ授テ西天大善自在佛領天下釋教普

通モ赤喇怛喇達賴喇嘛トスル至ル康熙五十三年準噶爾

師ヲ興シ寺ヲ焚キ僧ヲ逐テヨリ乾隆四年ニ至テ滿清

ノ兵カラ以テ漸ニ服從セリソノ衛ノ地ノ伊克招廟ノ

大門ノ右ニ唐碑アリテ今尚完好ナリ統志曰唐書長慶元年九月吐蕃遣使

請盟許之乃命大理卿兼御史大夫劉元鼎充西蕃會盟使兵部郎中兼御史丞劉師老為副元鼎等與論訥羅同赴吐蕃本國就盟此碑即當時所置也其文ニ曰

也○長慶ハ穆宗ノ年号也

大唐文武孝德皇帝大蕃聖神贊普舅甥二主商議社稷

如一結立大和盟約永無渝替神人俱以證之世々代々

使其稱贊是以勒石留傳之於後也文武孝德皇帝與聖

神贊普二聖隆哲鴻被曉久永之化垂於茲之情思履垂

無内外商議協同祐令萬姓安泰施恩如一成久遠大治

之績茲者同心以申鄰好之義共成願義今漢蕃二國所

守見管封疆毗岷之東屬大唐國界其塞之西盡是大蕃

地上彼此不為殺敵不舉兵革不相侵謀封境或有稽阻

從生問事給以衣糧於崑今社稷山川無擾各敬人神然

舅甥相好之義苦難每須通傳彼此相倚二國常相往來

兩路所遣唐差蕃使並於將軍谷交馬其毗岷之東大唐

應清水縣以西大蕃供應須令舅甥親近之祀使其西界
煙塵不揚同聞頌德之名永無驚恐之虞行人撤備鄉土
俱安並無相擾之犯無恩萬代則稱美之聲遍於日月所
照 蕃於蕃國受安漢亦漢國受樂各依此盟誓永不移
易當三寶及諸賢日月星辰之下刑牲設誓如有不依此
言背約破盟者受其殃禍也蕃漢君臣並稽首告立周細
為文二君之德萬載稱揚内外蒙庥人民咸頌矣

右唐蕃會盟ノ文今ニ於テ之ヲ讀テ慨嘆ニ堪ズ唐ノ
君臣イカナレハ斯ル後ニシキ盟ヲナシ石ニ刻シ恬トシテ辱
ヲ不知ヤソノ父意ヲ見レニ唐ノ天子蕃夷ノ主ヘ對シテ

諂諛之言文表ニ溢ルヲ畏縮知ルヘシ後世可鑒戎狄ハ
蠢爾タリトイヘ氏漸々強大ニテハソノ終リ制シカタクニ歴
々トハ慨夷人ノ如キモ松前ノ旧法ニテハ禽獸ノ如クニ
扱ヘト郡ヲ為セハ往歲リナシリ嶋ノ擾乱日本人七十
余人ヲ殺シ又親鸞徒ノ如キ最爾ノ僧侶ニテモ大坂
ノ戰數萬ノ兵ヲ費スガ如シ後世可鑒

増訂未覽異言云略

支那使聘記云

此書ハ魯西亜ヨリ

支那北京ニ使ヲ差ス

時ヨリ使入ノ記行ヲ譯セシモノナリ其

支那使聘記云

紅毛千七百十五年

我邦正徳五年清

月十八日支那國ノ帝王ニ奉クヘキ書簡ヲ受ケ取り則

リスノ都ビートルスホルコト云大河ヨリ出発ス同廿六日
ウフレガト云河邊ヲ過ク云々翌年正月朔日ユスプトス
ノフカト云村ニ至ル同廿七日シヘリヤ都テドボルスケ
ト云此所高山ノ上ニアリテ其埃廻リ瓦ヲ以テ築ケリヨキ
寺院アリ山ノ麓ニイルキスト云河流アリアリヤルモクケン
ノ南ノ方ニ彼ノ河ノ源アリ二月八日イルテス河ニ出船
シテ同十六日トラト云所ニ着ス此里ドボルスケイノ地ヲ
去コト凡百二十里其間ニハコメン宗ノシノ韃靼人住居
ス其衣服リユス国ノ制ニ似タリ上古ノリユス国ノ風俗
ハ知レリ今シヘリ国ニモ此風ヲ用ユルナリ婦人ハ耳環
ヲ綴ル又鼻エモ飾ルカリ貢物ハ年々リユス国ノ帝王ニ獻
所謂サアブルノ皮狐皮ソノ外種々ノ皮ナリ同廿一日
ラアボト云所エ着ス大ナル曠野アリ夫レヨリトムスケ
イト云所マテ過ル此曠野ニ一群ノ韃靼人住居是ヲル
スセンバルバリンスケイタルトスト名ク彼等皆穴居ス甚
賤陋ナリ食物ハ干魚乳粉常ニ飲モノハ雪水ナリ其政ハ
此曠野ニ求ルニ別ニ水ナシ彼等僅ニ馬汁ヲ貯テ外ニ獸
ナシ彼等衣服帽子ノリヤス等ハ種々ノ皮切ヲ綴ケル
ナリ年々リユスノ帝王ニ貢ヲ納レテ前ノ韃靼ノ如シ三
月七日トムト云河ニ来リ着ストムスコイト云里アリ其

河ノ末ハラビイ河ニ流レ此里ハ甚豊饒ニシテ充滿セリ
種々ノ美シキ皮類ヲ産ス鉛鉄銅山アリ又此地ノ古墳ヨリ
時々種々ノ古物ヲ取出スアリ金銀ノ魚鳥佛像馬具
耳環指輪帽子ノ外種々ノ品アリ古ハ貴人アリテ及
ニ住居セシト見ヘリ又水晶山アリ最上ノキヤミドニ類スル
アリ同十一日シエーソムト云所ニ来ル此邊住居ノ者シコ
リスケイガルカレイト名ク同女ニ日エンセイスカアリ
中ニ来ルエンセト云川アリ此里ニテ時々土中ヨリ大
ナル骨ヲ拾得ルアリミ子ヲルエ井ホフルエボルホ
スシインノ一類譯テ象身石又大ナル獸地中ニ居ルママント名ク

ク一角類ニアリソノ骨ナルヘシトモ云六月十六日ブラ
アコイニ着スソノ住居ノモノヲブラフケイガルカ
スト云馬牛羊甚多シ皮ノ日覆ミヲ作テ住居ス人物不
宜同十八日イルクフケイニ着ス往來羊形ヲ西轉輒又
エンヤレーン王アリテ支配スモスコベヤニ隣支那ノ支配ナリ又其國下ノ國ニ達
リス國ノ隣國ニ至テハ到着ヲ知ラスルナリ八月三日
バイハケスセセーニ至ル此バイカル別名ヲアクスニ
イクスト云東西ノ廣サ三十五ウウルステニ北ヨリ南ニ
五百ウウルステニ數是ヲ名テスヘトライモーレ又ヘイ
リゲメールト云譯テ靈湖此湖水ニテ温肺臍ヲ多ク見ルヲ

トセイハ海獸ナリ湖水ニ居ルナリ奇ナリ同十二日ウテ
インスコノ城下中ユータ河ノ邊ニ看ス此処ノ城郭高
山ノ上ニ築テ三角ナリ同十四日リス國ノ支那終リノ
城下シリギンスコノ到看ス小キ取出ノ城アリ此シリ
ヤ川ト名クルハ其川側ニ沿エナリ其源ハモンカア
レニ國ノ中西ノ方ニ廻リ流レテバイカルノ中ニ入ル爰
ニテ熊ト一書ヲカルモケンノ領主ニ送テ聘使到看ノ
事ヲ知ラス彼人返書ニ一人ノラマ又モンカアルノ僧ヲ
北京ニ遣スヘシ然レハ其返事ノ往來早クトモ三十日ハ
待ヘシト云九月二日支那ノマンタレイン一人シリシカニ来
ル支那帝王ノ命ヲ受テ聘使ヲ迎ノ為ニ来ルナリ同七日
シリシキンスコイヲ出立シテ九月廿ラフインノ中ニ来ル
十五日トラト云川側ニ看ス爰ヨリ飛脚ヲ萬里長城ノ
出崎ニテ遣ス中ニ木ヲ不見然ルニ馬屎ヲ焼ナリ是ハ
狼烟
ノ事ヲ此處ニ住居ノ韃靼ハ馬駝ヲ多ク飼ヘリ中分
ノ人ヨリシテ三四千疋アリ十一月六日萬里ノ長城ヲ
過ル民ヲ以テ築ケリ一民ノ厚サニ尋高サ凡三尋其長
東ヨリ西マテ海上ノ積リニテフランス里數ニシテ三
百里此城ノ上ニ小キ取出ノ城アリ弓矢ヲ備ヘカリ門
之側ニ右ノ方ニ番士八人屹度發束シテ居タリ左ノ方

ヲ見ルニ武士三十人鈕ヲ佩キ弓箭ヲ立リ

守重云此長
城ノエト考證

ノ篇ニ載スル難
記ノ説ト俟セ見ルヘシ

武具ハ支那ノ作法通りニ渡ス夫

ヨリ半里カルガント云里ニ至ル一人ノ飛脚来ルコレ北京ノ

刺史ヨリ遣ス所ナリ十二月十一日北京ヨリ一里半ホト

西セーシトイエン子ト云所ニ着スワレヨリマングレーン

案内ニテ帝王ノ皇宮ニ出ル耶蘇ノ會士二人来ル是ハ

北京ノ御伽ノ頭ナリ皇帝ノ命ヲ宣ル

一人ノ名ハギリ
マルニスストム

一人ノ名ハバシシクスハル銀ノ器ニテ茶ヲ賜フ耶蘇ノ會

士ノ節ニ同道シテ丁寧ニ請待セリ料理終リテ政羅巴

ノ作法ヲ尋子ラル同十二日マングレーン案内シテ皇宮ニ

出ルカスラアト

唯裏切
ル男ナリ

迎ヘテ茶ヲ典フワレヨリ宮

中奥ノ座ニ通ル皇帝玉座ニ坐シ玉ヲ各跪テ頭ヲ地

地ニツケ平伏ス重テ勅定ニハ玉座迄ク参ルベルト勅

定ノ始ニハリス国帝王益堅固ナリヤ勅意ハ耶蘇ノ會士

ヲ以テス我帝王出立ノ時不例ナリシカ途中ニテ清快

ノ由承之

守重曰此
在テ紅毛館
ノ情態ヲ悉
セリ重嘗テ
長崎ニ

俗語ヲ以テ
身ノ障ル所
ヲ云ヘリ重テ勅定ニハ幾バク力旅中掛タルヤ勅

問ニ故ニ其
座人ノ實情
スハキト思
ヘリ重テ勅定ニハ幾バク力旅中掛タルヤ勅

答ペートルスボルヨヲ出テ北京マテ十五ヶ月掛ケタリ

又勅定ニ何レモ短キ衣服殊ニツマリタルヲ着ヌ寒ナ
スヤトテ左右ノ人ヲ召サレ頼テ純子ノ衣ニ白狐ノ裏
フキタルヲ持来ル敕定ニ何レモ着服ノ上ニ看スベシト
ナリ又同道ノ醫者ニ皇帝ノ診脉スベシトナリ夫ヨリ
退テ初ノ所ニ居ル皇帝ヨリ料理卓袱ヲ賜フ皇帝ヨリ
會士ヲシテ宣フハ支那皇帝モ今度初テ我等ヨリ惣世
界ノ王ノ事ヲ知ルヲ得タリト食事畢テ再旅館ニ歸
皇帝ヨリ又菓子ヲ賜ヒ衣服ヲ賜フ同十四日宮中ニ赴
勅定ニ此國ヨリ少キ品ニテモ礼ス國皇帝エ土産ヲ贈
ラント欲ルヤ勅定ニ礼ス國皇帝凡エウロツパノ珍物

ハ有レトモ支那ノ珍物ハ今ニ不足セリ皇帝ニ任セ奉
ルエヘ何ニテモ賜ルベシト帰館後夜具衣服銀並食物
及ヒ驢馬ニ鞍置タルヲ賜ヒ或時我等會士ニ北京ニテ
焼物ノカケル具ナリ焚ヲ買ハントラセフ會士則チ皇帝
ニ言シテ其形ヲ國中ニ遣ヒ彼方ニテ焼物ニ作ラセラル
同十五日皇帝一人ノマングレーンヲ以テ勅定ニ歸國ノ
用意スベシ皇帝ヨリ申シ極ノタメ使ヲリル國皇帝ニ
遣ハサル同伴シテ行ベシ其使ハ韃靼人二人支那人二
人ナリ奎國二月二日千七百十七年ナリ我邦享
保二年清康熙五十六ニヤ支那ノ
正月元日ナリ國中ノマングレーン一萬人餘北京ニ赴リ

皇帝ニ拜賀ノタメ也其儀式種々ノ次第アリ何レモ皆
美服ヲ着ス其服ハ金系ヲ以テ龍獅子蛇山水等ヲ繡ス
上ニ小キ四角ナルモノヲ胸ト背中ニ掛クノレニ種々
ノ獸鳥ヲ繡ス皆ソノ官ニヨリテ替ルト云此時美々シク
飾リタル象十匹立タリ第三ノ官位ノミシカレインノ内
一人百歳ノ壽アリ韃靼ヨリ支那ヲ伐取テ此國ヲ治メシ
時ノ人ナリ同十五日火術ヲ見ル

魯西亞志云略

大西要録云

此書ハ和蘭ノアムステルダムニ於テレガ
不レニヨシエオウテンスト云人ノ所刻ノ萬國全
圖中ニ所載ナリ
山村昌永譯

帝國魯西亞

此國一名莫斯科未亞ト云フ其所部ニ四

ノ王國ノ地ニ十四ノ公國ノ地ニノホルステンダム右

ノ地十五ノノエルレイキヘエデニ爵名及ヒ四ノ大國ノ地

アリ

其王國ハ

加山

秘太臘罕

莫爾加耳

石弊利亞

其公國ハ

モスコー

タタミル

モサイスコ

テ左

ル

ラスノウゴロトレサニ

ウロチニ

ケ

セルニエウ

スモレンスカ

ビイルスカ

プレスコーワ

ウエルスキ

ノウゴロド

ビイルエソラ

エロストラウ

其ホルステンダムノ地ハ

ロスタウ

シユスダル

其ヘエレギキヘエデンノ地ハ　ウラルスカ　ウロガタ　ウ

スチング　杜^ト亦^ホ撃^ナ　ウヤトカ　ペツタラ　公^コ多^タ辣^ラ

莫^モ而^ル都^ド也^ヤ　メキリナ　インゴラ　カラレス

又^マ此外^{コノ}ニ　^{ロシヤニ属スル}　^{幅皮垂ノ地}

サモエーデン　^{小人国}大^オ韃^タ而^ニ韃^タ等^トノ諸^{シヨ}国^{コク}アリ其^{ソノ}地^チ極^{キョク}ニ廣^{ヒロシ}

クシチ遠^{トホ}ニ支^シ那^ナノ地^チト界^{カイ}ヲ接^{ツキ}ス

魯細亜紀聞

<sup>此書ハ寛政四年ノ魯細亜聘使アダムラクスニ
○エゴロトコロゴアのウラスバビョーフ三人ノ話説
ヲ記スルモ
ナリ</sup>

魯西亞元祖ペルウイムペラトロベトルアレクスエウエチウエリヤ

今^{イマ}女^メ帝^{テイ}ノ夫^フペトルペラトロウヒチー

今^{イマ}ノ女^メ帝^{テイ}　エカテリーナアレクスエウエナ　六十五歳

太子　パウユリーペトロウヒチー　三十八歳

太子ノ后　マリヤヒョードロウナ　三十三歳

女^メ帝^{テイ}ノ孫^ソ太子^{テイ}　アレクサトルパウエロウヒチー　男十五歳

コンスタンチン、ハウロウヒチー　同十三歳

アレクサントラ、パラウヒチー　同九歳

アレナ、パウロウナ　女六歳

エカテリナ、パウロウナ　同四歳

魯西亞國中ニテ言語人物異ナル處五十二ヶ所

ラロシスユイゴスホトス五シ左イナロート　ボリヤキウベライラ

ピリメールマヨール

四百五十枚

シユクンテマヨール

四百二十五枚

カツピタン

一日一枚 四足

ポロツチク

三百枚

ポフポロツチク

二百七十五枚

ランテロアロツパーロ

一本

カフテナルモノ

一本

シトウエセムアキリチヌ。カフラン

サウタト

ヤザーカ

マト

ロス

一本以下
二官無之

ホロツホース

国中ノ大船ノ惣司ヲエ子ラウアツメラウトニテ高官リ
諸国ノ漂流人ヲ司ル官人ノ名アリアケ、ヤントロヲロミノ

ウイタウラロンツラスト云

クロシヤノ十二支

チト

牛

ラウエン

羊

テレツ

牛

ビレヅ子ツエ

雙児

ラーカ

アワビ貝
未審

レーフ

獅子

デーワ

娘

ウエスィ

權衡

スゴリゼヨシ

蛇ノ類
未審

ステレ、ーツ

射人

ゴゼロホ

未審

ウホドレイ

童子二人水ヲ
器ニ入ル所

レーベ

魚

クロシヤノ四季ハ三四五ハ春ナリ六七八ハ夏ナリ九十
十一ハ秋ナリ十二ハ冬ナリ日卒ノ十二月ハクロシヤノ

正月ナリ

ヲロシヤニテハ閏月ナシ正月三十日二月廿八日廿九日廿日
一日アリテ二月ニ限りテ日数定ラス餘ノ月ハ年々日数
定レリ二月廿八日ト十六四年目ニ當ルナリ三月ハ三十
日四月ハ三十日五月ハ三十一日六月ハ三十日七月ハ三十
一日八月三十日九月三十一日十月三十一日十一月三十一日
十二月三十一日右ノ日数年々カハリナシ晝夜二十四時
ナリ

テワフチフトロイ」ヲロシヤヨリ 松前ヲ指テ云二十二ノ嶋
ト云言葉ナリ

ヲロシヤ國ノヲボーツカヨリ 松前ノ東夷子トテ海上里
数凡千九百八十里 ヲロシヤノ
里数ナリ

ヲロシヤ國ノヲボーツカヨリ 松前ノ子モテ直帆ニ西風
ヲ母挽受トシ東風ヲ父挽受トス又アイノ風モ順風ナリ
ト云日本船ニテ順風ニ帆片ハヲボーツカヨリ三日二夜リ
ヲヒニテ来ルベシトナリ 汝路甚弱シト云

アミシーツカ嶋ヨリ カミシヤーツカニテ海上里数凡千四百里
カミシヤツカ家数百四五十軒代官在テ守ル大川アリ船ハ
川ノ内ニ入置ケヨキ瀬泊アリ同所ヨリ千キリ迄三百七十
里大山越路ナリ家数凡二百軒代官アリ千キリヨリヲボ

ツカ延海上里数凡八百里代官アリ大船川ノ内エ入ル
湊ハ海底砂ニテ淺シ故ニ汎滿ルヲウカ、イ船ヲ入ルナリ
陸ヨリ二百間斗リ沖ニ右砂瀬戸アリ外ニ澗泊ナシ
戸数凡二百軒余同所ヨリヤコーツカ延山越路凡千十
三里代官アリ戸数凡五百軒此地晝夜曉々トシテ明ナ
リ然ニ暮ニ至テハ少シ暗シヤコーツカヨリイルコーツカ
延里数凡二千四百八十六里川ヲ沿ル中ニ一百五十里ハ
旅館アリ戸数凡二千百六十軒代官アリカミシヤツカチキ
リヲボーフカヤコーツカ等ノ代官ハ皆富所代官ノ配
下ナリ同所ヨリ魯西亜ノ都ペテルボル延凡五千八百
二十三里古都モスクワヨリ今ノ都エ五十一里

是ニテ日本ノ
道ニテ記スナリ

アミシイツカ島長サ凡七里横一里木ナシ寄木ヲ以テ薪
トス

ペトルガラニ川ノ名ナリヲボーフカ、延ニアリ至テヨキ

澗泊ニシテ大船川エ舩込ベシト云

ヲボーフカニ阿蘭陀人六人住居ス

イルコーツカヤコツカ共ニ雪降ズ寒氣ハ至テ甚シト云

イルコーツカヨリ滿洲ニテ_{ニシテ}氏四百五十里大川アリ西

国ノ境トス川ノ名ヲエレカアモーロト云黑龍江ノ一ナリ

支那ヲキタエスト云支那ノ都ヲペーキンント云玉ヲパント云

アシシイワカ女下唇ニ穴ヲ通シ骨ニテ牙ヲ拵へ其穴ニ通
シ下ニ垂ル惣身ヲ文ニシ

北アメリカ人鼻ニ穴ヲ通シ牛ノ鼻ガリノ如クシテ骨ニテ
牙ノ如ク拵へ其穴ニ通シテ下ニ垂ル下唇ニモ穴ヲ通シ骨ニ
テ牙ヲ拵エ下ゲ置キ其人此度兩人来リ

長人国ハモトアメリカノ中ニアリ今ハナシト云小人国モ貴
アリシガ今ハ萬國中ニコレナシトナリ

魯西亞國中ニヤユーファト云所アリ春分ヨリ秋分ニテ臘々
トシテ晝夜ヲ不分唯秋分ヨリ春分ニテノ間少シ晝夜ヲ
知ルト云又ヤユーツカノ属国ニガガンツカト云所アリ冬月

ハ日ヲ見ル一ト一時許リ夜甚長シ

フロシヤ国半ヲシビリト云

フロシヤ国ノ中ニミロシヤト云所アリ米ヲ産ス國中此所
ノ米ヲ産ス其外ニナシ

フロシヤノ属島ニトングスイト云アリ此人婦人ヲ賣フ夫ハ
甘房ノ奴僕ノ如シ

フロシヤノ属島ニ左ツキケト云アリ其人主人死スレバ奴
僕ノ中老人ヲ共ニ焼殺ス又病アレバ自カラ及物ニテ左
乳ノ下ヲツキ死ス病死スルヲ耻ルト云

インデヤノ人色墨ノ如シトウツカノ人モ又面色墨ノ如シ共ニ

ヲロシヤニ数人居ルト云トロツカハ都児格ノ属国ナリ
ヲランガ国王ナシ國政ハ時ノ賢オノ人ヲ擧テ政ヲツカサ
トラシム如此者七人アリテ其人一代政ヲ司ルトナリ此レ
ヲレスフビリキト云

ヲロシヤ国女帝ノ孫女アンゲリヤエ嫁ス

ヲロシヤノ交易セサル國ハ日本ノミナリト云

ヲロシヤトシウエツコイト雪際重ノ軍アリヲロシヤ勝利ヲ得

テシウエツコエノ都ヲ取り今ノ都ハシウエツノ都ナリパート

ロペロライノ代今年マデ六十五年ニナル

三年以前コレツコエ都児格ノ軍ヲ起シ加勢ヲシウエツ

求メ兩軍合テヲロシヤヲ攻ムヲロシヤ勝利アリ其時シウ

エツノ軍船百五十餘艘ヲロシヤ軍中大炮百二十小筒ハ

数ヲ知ラスヲロシヤヨリヒツコエニ里數三千五百里シウエ

ツエニ百里何レモヲロシヤノ里數ナリヲロシヤノ一里ハ五

ヲロシヤノ尺三尺ニテ一間日本ヤチ尺ニナラシ百間ヲ以テ一里トス

尺ハ日ナニテ二尺ニナラシ七尺ハ八分ヲロシヤノ一

間ヲロシヤノ一里ハ日ナナリ子尺ニナラシ五百九十間ナリ

ヲロシヤノ軍立ハ大炮ヲ專トス代官ゴトニ軍人千人ヨリ

四千入ニテアツカリテ年々春秋ニ野ニ出鐵炮ノ早打

ノ稽古スルナリ

ヲロシヤノ軍中ニ鉄炮ヨリ毒丸ヲ放テ出ス其玉膏菜ノ如ク

和ラカニシテ何ニテモ打付ル其ハ能附トナリ大其玉燃エテ
其煙甚毒ナリ牛馬ニ至ルマテ此毒ニアリル其ハ急ニ死ス云
ペートゴペロライト云王ノ代ニ大蛇アリテ人ヲ害ス故ニ王
自ラ此ヲ殺ス今其王ノ像ヲ銅ニテ馬ニ乗リ蛇ヲ馬ノ
受ニテフマイ立タル形ヲ一丈有年ニ格正ヲロシヤノ都ニアリ
トナリ 守重云ヲロシヤノ識号ハ西頭ノ鷲ヲ用ニ是ハ昔魯
西亜ノ国主バシリウスノイハスナル者イルニミヤノ帝ト
交ラ結フ一極テ親シク兄弟ノ如ク子孫永世相差ハガレ
約ス此時此紋即モ彼国ヨリ傳ヘタリト云鷲ノ右ニ笏ノ如キ
モノヲ持之ヲレイキススタフト名ク左ニ珠ノ如キモノヲ持
之レイキスアツアルト名ク共ニ王者ノ持ト云ロニシテ国宝トナス
モノナリ中央ニ騎馬ノ印アリ是本國ノ識号ナリト夢游秘
書ニ見ヘタリ梅ニ騎馬ノ識号ハ則本文ニ所載ナリ
ヲロシヤ國王ノ庫ニ世界ノ人物ヲ裸體ニテ立タル像ヲ一

玉石ニテ其長六尺余ニ格正ニ藏タルアリ又珍禽奇獸ヲ
藏タル庫アリ或ハ藥水ヲ以テ藏或ハ色々ノ藏アリテ
禽獸鱗魚其形ヲ生ルカ如シ又異形奇顔ノ支離者ヲ生
タルモノアレバ其人ノ姓名日月ヲ記シ藥水ヲ以テ藏貯フ
ト云

貴賈梅ニ諸氏一見ハ驚シムスカアモリト云フ庫ニ此れあり
ヲロシヤニテ國王ノ生日名附タル日ニ平人ニ至マテ鉄炮
ヲ放テ之ヲ祝フナリ此日ニ六國中地震ノ如ク震動ス云
ヲロシヤ王ノ通行ニ諸人町ニ出テ手ヲ出ス王ノ手ノ上ニ
王ノ手ヲ奉テ其手ヲ王自ラ吸フ一二度
ヲロシヤ人妻ヲ迎テ其夫死スハ其妻又他人ニ嫁ス若シ

不縁ニテ離別スルハ一生嫁スルヲ禁ス

ヲロシヤ国男色ヲ禁ス若シ犯スモノ有ハハ割ス

他国ノ人漂流ニテヲロシヤニ至リ彼国ノ宗門ニナルハ一

室ニ入寺僧ニテ合経ヲ讀ミ香ヲ焼湯ヲ以テ身ヲ洗フ

ト數百遍ソノ後又水ヲ以テ洗フト數遍古キ宗門ヲ洗

ヒ流スト云義ナリ其後色々仕方アリト云他他人ニ之ヲ

見セズトナリ

ヲロシヤ人ノ持來ル書物ニ日本ノ國面江戸御郭ノ面アリ

其外日本ノ名所ノ面モアリ

キリロガスタウイナラクスミン是ハ今度來ル使臣アダムガ

父ノ名ナリヲロシヤ國中ノ大儒ノ由シラクスミンハ姓ナリ

彼國ニテハ姓ヲ後ニ云子ハ父ノ名ヲモ自ラガ名エ付フ

ケテ云フナリアダムハ已ヤ名キリロイナハ父ノ名ラクスミ

ハ姓ナリ人ヨリ呼ビアダムキリロイナト云父ノ名ヲ云ハ

日本ノ誰様ト云様ノ如シ尊称ナリ自ラ人ニ云ハアダム

ラクスミント云

エヒムヤコラウエレイナユゼヲロシヤ國ノ日本通事ノ

名ナリ

今度來ル通譯ハイゴロイワノイナトゴロコフト云此者ノ

役ハ本國ニテ烟家屋敷ノ間ヲ割り踏番請等ヲ勤ル役

ナリ

ヲロシヤノ地中ヨリ大獸ノ牙ヲ掘出ス一時々アリ其名
ヲマーモンタト云清統志鄂羅斯土產ノ中ニ麻門橐窪アリ
即チ此ニヲロシヤノ話ニ此獸往古大水出テ世界海ナリ
シテアリ其時地中ニ埋モレテ死タル獸ノ牙ナリト云牙ノ
長サ凡一丈有余ヲリモ八九尺アリ是ヲ得ル時ハ甚
珍藏スゴキヨト云獸ニ足持来ル其形羊ノ如シ毛白ニテ
少シ長ク角モ羊ノ如ク羊ヨリ大ヒクシ此獸ヲロシヤノコ
ノヨート云島ニ多クアリ故ニ島ノ名ヲ獸ノ名ニ呼トナリ
此皮甚ヨロシキ皮ナリ今世上ニムスコビヤト云草ニレナリ

ソールブリ狐ニ似テ小キ獸ナリ毛ハ黒クシテ柔カナリ
ヲロシヤ人甚珍重ス此獸岩山ニ居ト云

モールヂエ大牙ノ在ル海獸ノ名此獸ウニコールト游フ
其牙長サ五尺有餘

ヲロシヤ國ニ麝香アリ名ヲバラガト云臍ヲストロヤト
云用ルヲ不知キタイツノ人ト交易スキタイツハ身ニ

香ナシ唯臍ノミニ香アリ短角アリ是ハ鹿ノ蹄ノ如クニ

コレモモ鹿ハ如ク長ケ鹿ヨリハ小ナリ又ウエーホホリ

ト云獸アリ尾ニ香氣アリテ身ニ香ナシ小獸ナリ尾ハ

少シ太クシテ七寸バカリアリ牝ニハ香ナシ

漂流紀聞云ロシアノペテルボルノ都ハ日本道ニ里四方モ
アルベシ官人ノ家町屋トモニ家作ハ瓦石土ヲ以テ三階ニ
築テ上中下ニ住居スベシ往来ノ中ニ凡十間ホドリ
水道ヲ掘廻シ兩岸ハ色々ノ磨石ノ石垣ニテ鉄ノ雕物
シタル欄干ヲ附ケ所々ニ石橋ヲ掛ケ橋杭ナシ往来モ夜ハ
西側ニ所々硝子ノ燈籠ヲ掛ケ諸侯官人ノ出行ニハ車
ニ乘リ飾リタル馬ニ駕ス其位ニヨリ馬数ノ多少アリ

守重曰日本邊海ニ魯西亜船云々略

日本人口シヤエ漂着セシト守重ハ聞トコロ凡三度ロシア
ノ日本ノ事ヲ詳ニ日本ノ風俗文字言語ヲテテ講習スル

「ハ皆此等漂民ヨリ傳ヘシ所ナルベシ嘗テ聞ク魯西亜ニ
於テハ諸國ノ漂民アル別ニ舍屋ヲ設ケ廩俸ヲ與ヘテ
厚リ撫卹シ其國々ノ風土言語文字ニ至テテ盡ク生
徒ヲシテ講習セシム故ニ萬國ノ事通知セザル「ナシト蘭
書ケンブルノ如キハ日本ノ風土文字ハハ論道里驛程京
攝ノ名所ヨリ都下及柳營ノ事ニ至ルマテ盡ク圖記シ
テ残スル「ナシ又魯西亜刻スルトコロノ日本地面ニモ
我邦列侯ノ紋ニ至ルマテテ面シテ其詳悉ヲ示スガ如キ
ハ皆蛮國ノ風習ト云ベシ寛政丙辰守重長崎ニ在リテ紅
毛ヘトルニ魯西亜ノ事問ヒタレバ嘗テリス國ニ往キシ「

アリシガ日本ノ事能ク知りテ最モ可畏国ナリト云ヘリ其
漂民ノ事及聘使ノ恩ヲ左ノ如シ

宝曆三癸酉年

一ニ云延年元年ト然レ氏天明五年飛彈屋集ノ書上ニ三十三年前トアレハ宝曆三ヲ以テ是トベキカ

又一説ニ宝曆十三年ノ頃シヤエ漂民人アリテ今ニ六人存命シ
ナアリ其国ヲ問ハル松前ト云ト疑リハ傳聞ノ誤ナラン

奥州南部領佐井村竹内徳兵衛外十六人千二百石積ノ

新艘ニ乗組同年十一月十日曾佐井ノ湊ヲ開帆シテ難風

ニ逢ヒ北方ニ漂流シテ魯西亜ニ漂着ス徳兵衛ヲ親族

勝右衛門奥戸村伊勢屋安兵衛親族利八大間村長松宮

古湊伊兵衛長助等今ニ存生シテ魯西亜ノ土人トナリ各

所々ニ住居ス利ハハヤムサスカ土人日本ノ通詞ビヨドロト

云モノ、妹聲トナリ勝右衛門ハイルクワコイニ住居シテロ

シヤ國王ヨリ銀錢二百文ニ抱ヘラレイルクワコイノ役人

トナリシニ男子ヲ生ノリ此子諸人ニ勝タリケル國王ヨリ

ベイタラレシヤイチャト云名ヲ與ヘ天明三年ニ至リ十七

歳ニナリシカ國王ヨリ大船ヲ造ラシメ水主七十四人ヲ

添テ勝右衛門カ子ヲ船師トシテコロヲタラシエリスカイト

港ヲ開帆シテ針路ヲ南方ニ求メ蝦夷ノ地方ニ赴キシガ

カラフトニ着シテ土人ノ為ニ殺サレ船ハ流レテウルツ

カ嶋アダツトイニ漂着シヤリト云

此事ノ詳ハ右漂流人ノ中久助が赤人ノ国ニテ生シ子イワンビリボーナキ

ラヘリスニコフト云モノ寛政四年魯西亞ノ聘使ト共ニ松
前ニ来レリ

天明二壬寅年伊勢国白子村神昌丸船主彦兵衛船頭幸
太夫外十六人乗組同年十二月島初出帆駿河中ニテ難
風ニ逢ニ漂流シ翌卯年七月アミシツカ嶋工漂着同所ニ
四年滞留セシニ赤人此嶋工獵虎膽ニ来リシ船アリ其船
ニ便ニシテ同七年八月ヤムサスカエ着船同八年子ギ
リヲ経テヲボツカエ入津十一月ヤユヲツカエ着寛政元酉
年二月イルコヲツカエ着同三亥年二月ヲロシヤノ城下子テ
ボルエ着女帝エカテリナエ詣ニ同十一月城下出立同四季

年九月十三日漂民幸太夫磯吉小市三人魯西亞ノ聘使

ト同船ヲホツカ開帆十月三日東蝦夷地ハラサンエ帰

着同五日子モロエ帰国ス

漂民幸太夫ノ始末ハ別ニ
記スルモノアレバ此ニ累ス

同時魯西亞国女帝エイカテリナアレキセウ十聘使ノ名及

ムキリロライチラリスミン

官ホロツケ
ノ歳二十八大船頭ワシレイニヨウ

ドロライチロフソフ

官アラツホフニ
キ歳五十五通詞エゴロイワノライチ

トニコゴフ

官セリガント
歳三十六

南部漂民久助子イワニヒリホイナ

ラヘー スニコーフ

官セリガント
歳三十四

其外三十四人寛政五年五月

七日蝦夷地子モロ出帆六月八日箱館ニ着船同月廿日

松前ニ出書ヲ捧ケ物ヲ献セシヲ請フ許サズ今ヲ論ニ

物ヲ賜ヒ七月十六日箱館ヨリ歸帆ス

魯西亞來聘ノ末ハ
事殊ニ長シテ又別ニ記

スルモノアレバ
此ニ畧ス

寛政五癸丑年奥州仙臺領牡鹿郡石之巻八百石積若宮
丸船頭清兵衛外十五人同年十二月難風ニ逢ヒ漂流翌
寅年五月ヤツカト云嶼ニ漂着同七年六月ロシヤノ船ニテ
ヲコウツカエ着ス文化元年甲子年九月六日伴太夫儀平左
兵衛太十郎四人魯西亞船ニ乗テ長崎ニ歸国ス
同時魯西亞国主アレキヤンドルノ聘使レサノツ外一船八
人ノノ国書ヲ捧シ方物ヲ献シ通信ノ事ヲ請フ許サズ
今ヲ論シ物ヲ賜ヒ文化二年乙丑月日長崎開帆歸国ス

此往来ノ海路ヲ聞ニ初魯西亞ノ国府ペートルスベルクヲ

開帆シテデーネリニ至リ

凡五
百里

デーネマルクヨリアンゲ

リヤニ至リ

凡六
百里

アンゲリヤヨリ

カナリヤ諸島ニ至リ凡

千ヤナリヤヨリ

南亞墨利加ブラシリオンニ至リ凡三

ラシリオンヨリニルデーサ島ニ至リ

凡四
千里

マルゲーサヨリ

カムシカフトニ至

凡三
千里

カムシカフトヨリ日本ノ東海ヲ過

テ長崎ニ至ル

凡千
里

海路通計凡一万四千一百里歸国ノ

時ハ長崎ヨリ開帆シテ日本ノ西海ヨリ中国ト朝鮮ノ

間ヲ乘リ西帳夷地ノウヤトカラフトノ間ヲ抜ケテカムシ

カフトニ渡リ同所ニ使節レサノツハ上陸シテ歸国シ其

